

**東日本大震災における  
国立病院機構の医療支援活動の記録**





平成23年3月11日に発生した東日本大震災から1年が経過しました。被災地では復旧・復興に向けて徐々に動き出されていますが、現在でも多くの方が避難生活を強いられており、心よりお見舞い申し上げます。幸いにも、機構病院の入院患者で、この震災により亡くなられた方はいませんでしたが、震災では多くの尊い命が失われ、国立病院機構においても3名の職員が犠牲になりました。亡くなられた多くの方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

被災地の機構病院では、震災発生直後からライフラインが寸断している中で、職員の懸命な努力により地域の中核病院としての診療が続けられました。病院職員やブロック事務所職員の皆さんは、家が被災したり、家族と連絡が取れなかったりという辛い状況の中、不眠不休で病院運営の維持にご尽力をいただいたことに心から感謝と敬意を表したいと思います。

今般の震災に際して、国立病院機構は、災害発生直後のDMATなどによる超急性期医療から慢性期医療、心のケア、原子力災害への対応まで幅広い支援活動を担いました。医療班などとして被災地で活動された職員の方の貢献は言うまでもありませんが、医療班の後方支援や留守中の職場体制を維持するために病院に残っている職員の協力があってこそ医療班が現地で活動できたと思います。中には、医療班派遣の意向があったものの、現場の医療ニーズを踏まえたスケジュール調整の中で、残念ながら派遣を見送らせていただいた病院もありました。ただ、被災者のために役に立ちたいという職員の皆さんの心意気を強く感じる事が出来て、とても有難く、また心強いと感じました。

被災した機構病院では、入院患者の安全を確保するための搬送、食糧や医療材料などの物資の確保、疲弊された職員の負担軽減が緊急の課題でした。このため、全国の機構病院から職員の応援派遣及び不足物資の支援をいただくとともに、入院患者の疾患や移動距離などを考慮し関東信越ブロック管内の病院に患者を受け入れていただきました。

今回の支援活動は、機構のネットワークが最大限に発揮されたものであり、機構全体が一致団結したからこそこの危機を乗り越えることが出来たと思います。職員の皆さんには、東日本大震災への支援活動にご尽力を賜り心より感謝しています。

平成24年3月

独立行政法人国立病院機構

理事長 矢崎 義雄

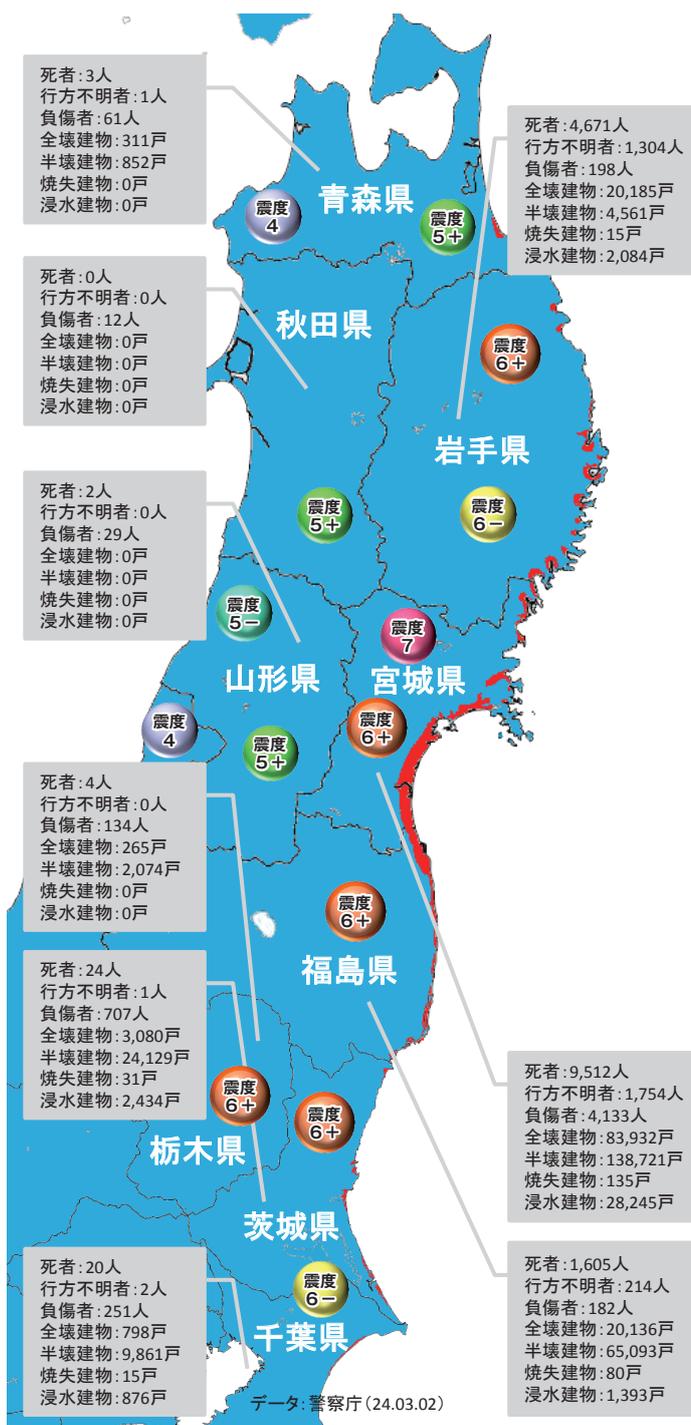
## 目次

I 東日本大震災の概要及び被害発生状況	1
II 国立病院機構における震災の対応	13
1. 被災地への医療支援	14
1-1 DMATの活動	18
(1) 宮城県におけるDMATの活動	20
(2) 岩手県におけるDMATの活動	22
(3) 福島県及び茨城県等におけるDMATの活動	24
1-2 医療班の派遣	26
(1) 宮城県における医療班の活動	28
(2) 岩手県における医療班の活動	46
(3) 福島県における医療班の活動	56
1-3 心のケアチームの派遣	64
1-4 医師・看護師等の派遣	66
2. 機構内でのネットワークを活かした対応	68
3. その他	76
III 実際の経験から	81

# 東日本大震災の概要及び 被害発生状況

# I 東日本大震災震災の概要及び被害発生状況

マグニチュード9.0の地震と太平洋側の沿岸部を襲った巨大津波、更に原子力発電所事故に伴う放射線災害により未曾有の大被害をもたらした東日本大震災



## 全国の被害状況(平成24年3月2日)

死者：15,854人  
 行方不明者：3,276人  
 負傷者：6,023人  
 全壊建物：128,768戸  
 半壊建物：245,626戸  
 焼失建物：281戸  
 浸水建物：35,935戸  
 非住家被害：57,271戸  
 被害総額：16兆9,000億円(内閣府推計)

## 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震 ~The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake~

発生日時	平成23年3月11日 14時46分頃
発生場所	宮城県牡鹿半島の東南東約130km、深さ24km付近
マグニチュード	9.0(モーメントマグニチュード)
最大震度	7(宮城県栗原市)
概要	南北に500km、東西に200kmのプレートが最大で20~30m程度すべった
余震回数	M5.0以上×593回、このうちM7.0以上×6回

地震は、国内観測史上最大、世界でも20世紀初頭からの100年間で4番目の地震規模であった。また、M7.0以上の余震が6回発生するとともに、静岡県東部でM6.4、長野県北部でもM6.7など本地震により誘発されたと考えられる地震が発生した。

強い揺れであったにもかかわらず、日本海側に比較して、太平洋側に被害が集中しており、津波による被害が甚大であったことが分かる。

内閣府は、本震災の被害額を16兆9,000億円と推計している。

## 1 地震の概要

### (1) 地震

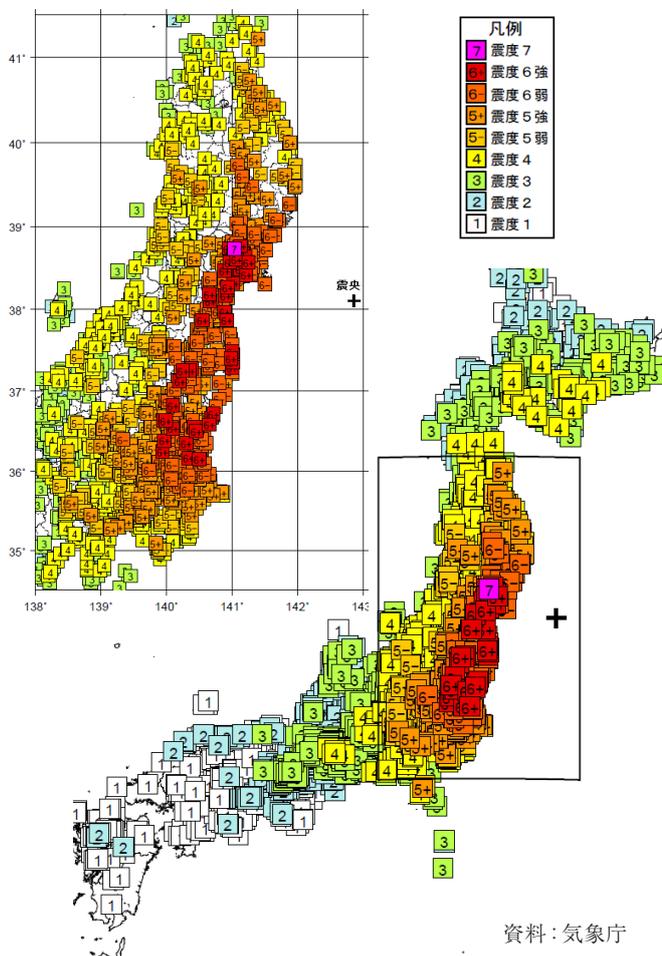
平成23年3月11日14時46分頃に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、広い範囲で震度6以上の強い揺れを観測した。震源は宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で深さ約24kmとされている。この14時46分の地震に続き、さらに2回（福島県沖、茨城県沖）の大地震が連続発生したため、地震全体のエネルギーが巨大になり、国内観測史上最大、世界でも20世紀初頭からの100年で4番目のM9.0という地震規模になった。気象庁は地震の名称を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名し、政府は4月1日の閣議で地震による災害及びそれに伴う原子力発電所事故に

よる災害について「東日本大震災」の名称とすることを決定、発表した。

本震による震度は、宮城県栗原市で最大震度7を記録した。宮城県、福島県、茨城県、栃木県などでの震度6強の他、北海道から九州地方にかけて、震度6弱から震度1の揺れが観測された。なお、東京都は震度5強、名古屋市は震度4、大阪市では震度3であった。

本震の後も強い揺れを伴う余震が多数発生している。M5.0以上を観測した余震は、3月11日だけでも155回、2月25日現在までの間では593回発生している。

### 【震度分布図】



### 【強い揺れのあった主な地域】

震度	県名	市町村
7	宮城県	栗原市
6強	宮城県	仙台市宮城野区、東松島市、石巻市、塩竈市、登米市、大崎市、名取市、山元町、桶谷町、美里町
	福島県	白河市、須賀川市、新地町、国見町、鏡石町、双葉町、浪江町、楡原町、富岡町、大熊町、天栄村
	茨城県	日立市、鉾田市、高萩市、小美玉市、那珂市、笠間市、筑西市、常陸大宮市
	栃木県	宇都宮市、大田原市、真岡市、市貝町、高根沢町
6弱	岩手県	釜石市、大船渡市、花巻市、一関市、奥州市、矢巾町、藤沢町
	宮城県	気仙沼市、白石市、角田市、岩沼市、亶理町、南三陸町、大河原町、松島町、利府町、大和町、
	福島県	福島市、郡山市、いわき市、南相馬市、二本松市、田村市、伊達市、
	茨城県	水戸市、土浦市、つくば市、鹿嶋市、かすみがうら市、東海村
	栃木県	那須塩原市、那須町、那珂川町
	群馬県	桐生市
	埼玉県	宮代町
千葉県	成田市、印西市	

【過去に起きた地震の規模】

地震の大きさ	過去の地震
中地震	M6.2：宮城県北部地震（2003年） M6.2：新潟県中越沖地震（2007年） M6.9：能登半島地震（2007年）
大地震	M7.0：福岡県西方沖地震（2005年） M7.3：阪神淡路大震災（1995年） M7.9：関東大震災（1923年） M7.9：四川大地震（2008年）
巨大地震	M8.2：北海道東方沖地震（1994年） M8.3：十勝沖地震（2003年） M8.8：チリ沖地震（2010年）
超巨大地震	<b>M9.0：東日本大震災（2011年）</b> M9.1：スマトラ島沖地震（2004年） M9.2：アラスカ地震（1964年） M9.5：チリ沖地震（1960年）

地震の揺れの時間が長いのも本地震の特徴である。気象庁によると、震度6弱を観測した福島県いわき市では、震度4以上が約190秒続いた。その中で震度5強に相当する揺れの部分が40秒、震度5弱以上が70秒であり、強い揺れが長時間続いたことがわかった。なお、東京都心でも約130秒にわたり揺れた。

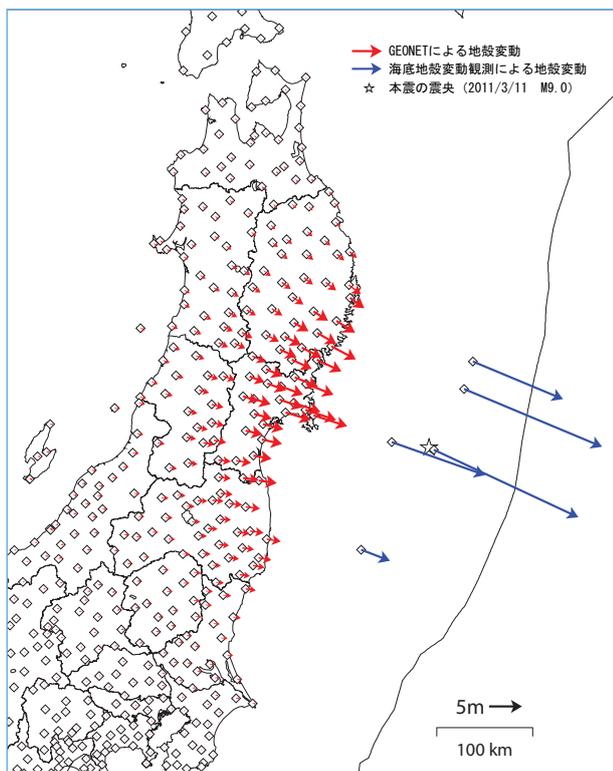
国土地理院によるGPS連続観測（GEONET）では、今回の地震により、東北から関東地域の広い範囲で東向きの地殻変動がみられた。宮城県牡鹿半島は、東南方向に約5.3m水平移動すると同時に、約1.2m沈降した。

地震の持つエネルギーの大きさを表すのがマグニチュードであり、約0.2増えると2倍、1増えると約32倍、2増えると1,000倍のエネルギーとなる。

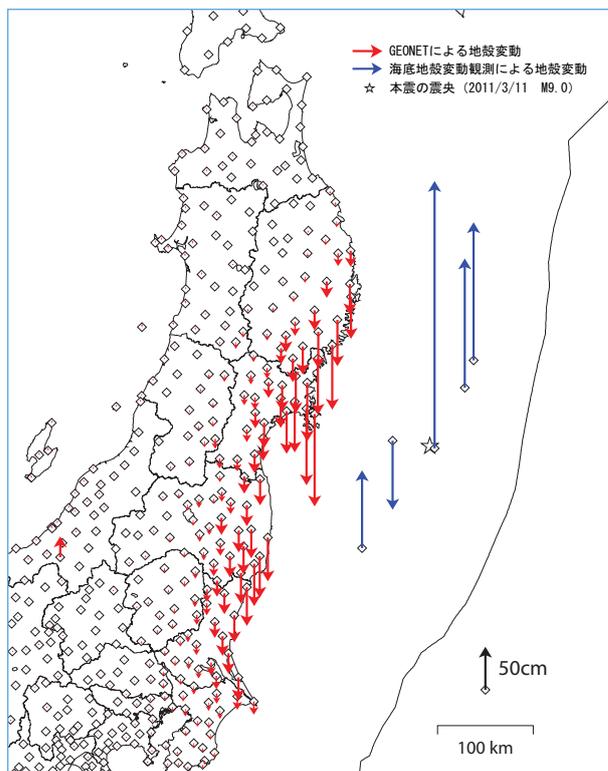
今回の地震のエネルギーは、阪神淡路大震災の約1,450倍であった。

【地震による地殻変動】

水平方向



上下方向



資料：国土地理院

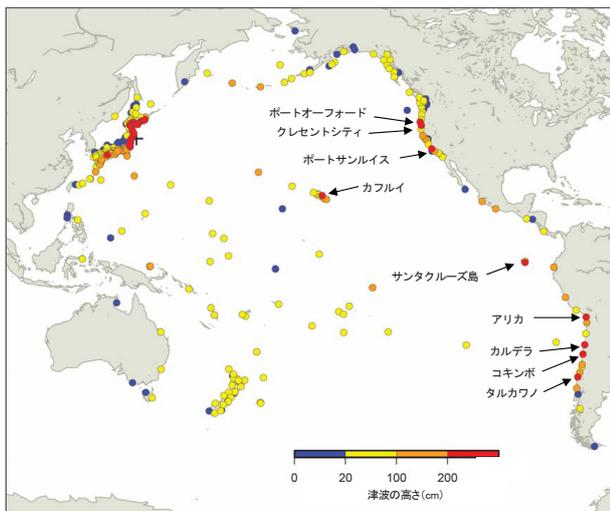
陸域は国土地理院のGPS連続観測、海域は海上保安庁海洋情報部の海底地殻変動観測によって得られた地殻変動を示す。

## (2) 津波

地震は太平洋プレートと大陸プレートの境界で発生した海溝型地震で、震源域は岩手県沖から茨城県沖まで南北に500km、東西に200kmと広範囲にわたっているため大規模な津波が発生した。地震からおよそ30分後に岩手、宮城沿岸に最大波が到達。さらにその1時間後に東日本太平洋沿岸の全域に津波が到達した。津波は日本全国の検潮所で観測され、太平洋岸では、北は根室から南は奄美大島まで1m以上の津波が観測された地点が多数ある。波源域に近い東北地方太平洋沿岸では津波が高すぎて、検潮所が破損し最大波が観測できない

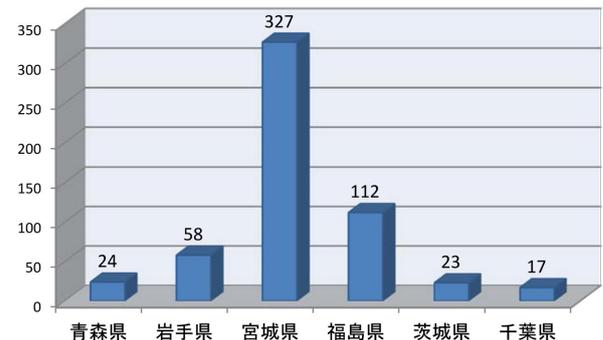
地点もあるほどであった。岩手県から福島県にかけては、海岸ではね返った津波が湾部に集中し、次々沿岸部に津波をもたらした。とくに仙台湾で波の集中が著しく、10分以上続いた。また、牡鹿半島で反射された津波は三陸沿岸へ断続的に押し寄せていったとされている。津波は最高潮位9.3m、遡上高は国内観測史上最大の40.5mに達し、想定していた高さを遙かに上回る津波が沿岸の都市を次々に襲い、戦後最悪の自然災害となった。また、太平洋に広がった津波により、インドネシアとアメリカでも死者がでた。

### 【海外での津波の観測】



資料：気象庁

### 【県別浸水面積 (km<sup>2</sup>)】



宮城県が圧倒的に大きいのは、仙台北野を中心とした低地において広範囲に浸水したことによる。2位の福島県は南相馬市と相馬市の浸水面積が大きく、2市で同県の60%を占める。



仙台市東部沿岸地域 (写真提供：仙台市)



仙台市若林区荒浜小学校 (写真提供：仙台市)



仙台港周辺の工場、倉庫  
黒煙は多賀城市の石油コンビナート火災（写真提供：仙台市）



宮城県山元町



岩手県宮古市田老地区（写真：田老町漁業協同組合提供）



岩手県宮古市の市街地（写真：宮古市提供）

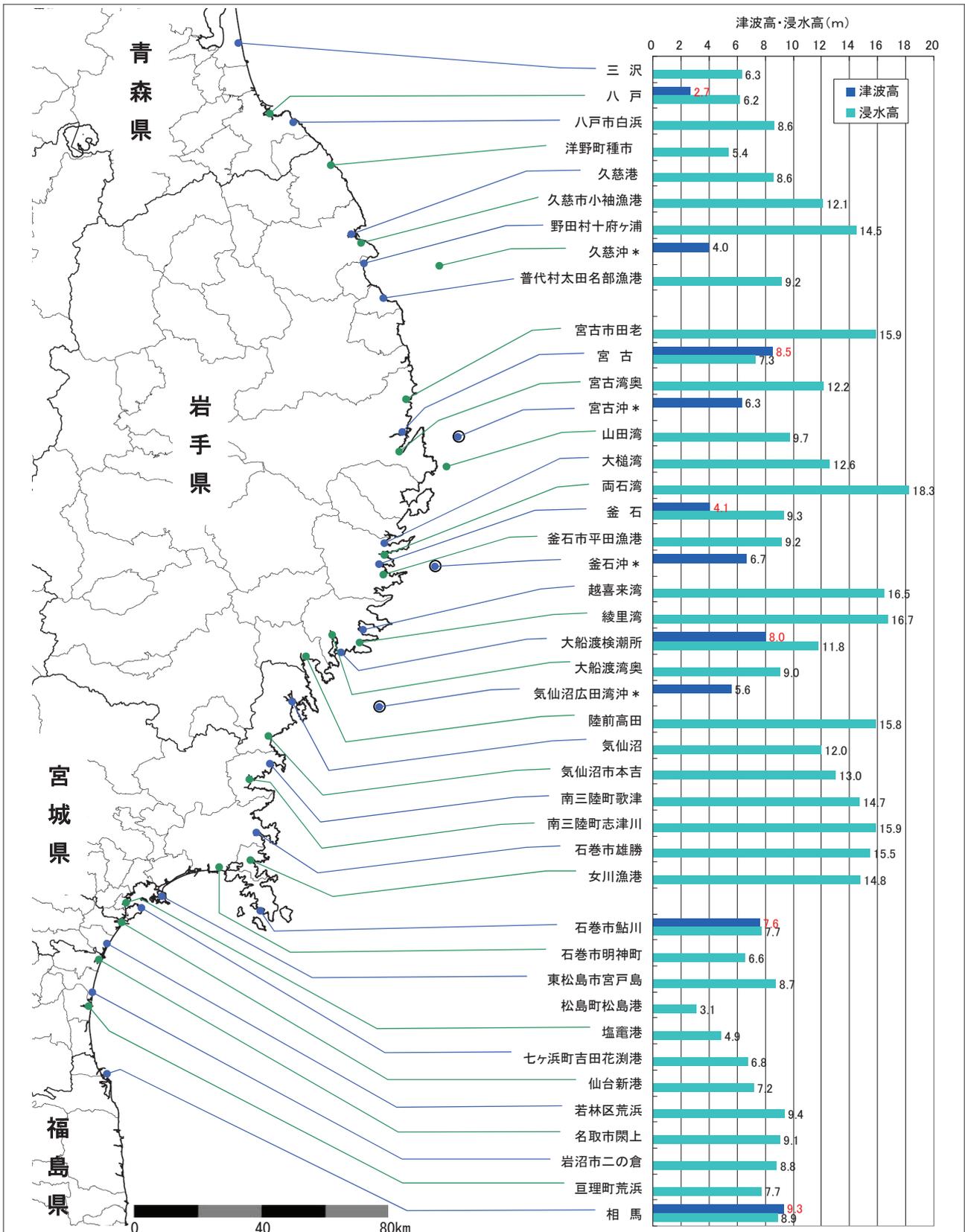


岩手県山田町



岩手県山田町

【青森県三沢市～福島県相馬市各地の津波高・浸水高】



赤字の数値はそれ以上の観測記録の途絶によりそれ以上の数値の可能性がある

資料：日本気象協会

### (3) 東京電力福島第一原発事故

東京電力福島第一原子力発電所の地域は震度6強であった。地震発生時に稼働していた1～3号機の原子炉内に核分裂を止める制御棒が挿入され自動停止し、炉心冷却装置が起動した。しかし、15時40分に設計波高を超える14m以上の津波が到達し、非常用電源を含め全電源喪失の状態になり冷却機能が失われた。原子炉の温度及び圧力が上昇し、ベント(弁を開けて排気する作業)や海水注入等の緊急対応を試みるも12日15時36分、1号機で水素爆発が発生した。原子炉建屋が破壊

され、放射性物質を大量に環境へ放出する深刻な原子力災害となった。

福島第一原発から半径20km圏内は、警戒区域に設定され、消防隊、警察、自衛隊等の緊急対応策に従事する者以外は、市町村長の許可無く立ち入ることを禁じられた。また、半径20km以遠で1年間に積算線量が20ミリシーベルトに達する恐れのある地区を計画的避難区域に設定し計画的に区域外への避難が求められた。

- ①② 5号機近傍から西側を撮影
- ③ 廃棄物処理建屋4階から北側を撮影
- ④ 1号機 (3月12日)
- ⑤ 1～4号機 (3月15日)
- ⑥ 4号機への放水 (3月22日)
- ⑦ 3号機 (3月16日)

(写真提供：東京電力)

#### 【東京電力福島第一原子力発電所】



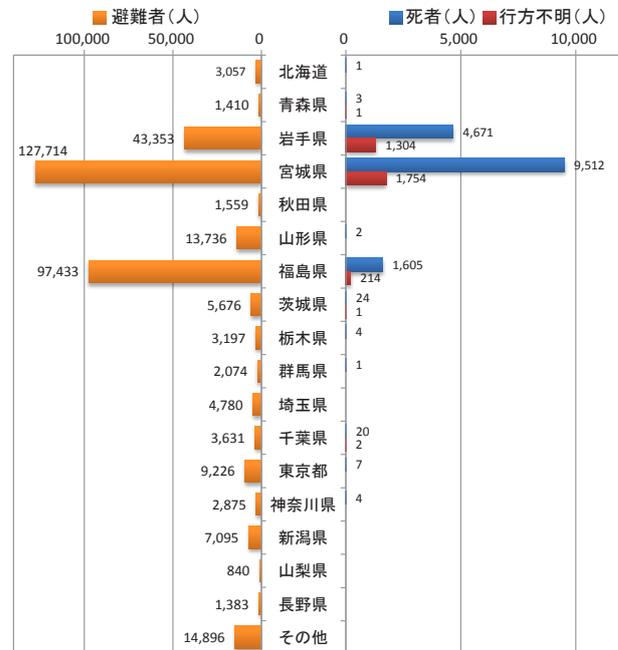
## 2 人的被害

警察庁の資料（平成24年3月2日）によると人的被害は死者15,854人、行方不明者3,276人、負傷者6,023人にのぼった。また、発災4日目の避難者数は46万人を超えと言われており、どちらも第二次世界大戦後の自然災害では最悪の数字である。死者・行方不明者は岩手県、宮城県、福島県で99%以上を占め、被害はこの3県に集中している。

### 【全国】

死者：15,854人  
 行方不明者：3,276人  
 負傷者：6,023人  
 避難者数：343,935人  
 （うち避難所 578人）

### 【東日本大震災の被害者数】



死者、行方不明者数：警察庁（平成24年3月2日）  
 避難者数：復興庁（平成24年2月23日）

## 3 ライフラインの被害

### (1) 電気

地震発生直後、東北電力管内では、岩手県、秋田県、宮城県の全域、青森県、山形県のほぼ全域、福島県の一部で、約486万戸が停電し、東京電力管内では、茨城県全域、その他の関東地方各県の一部地域で、約405万戸が停電した。その後、東京電力管内では、3月19日までに全てが復旧した。東北電力管内では、津波により公共的なインフラが流失してしまった地域を除く復旧作業着手可能地域の停電は6月18日に全て復旧した。

### (2) 上水道

水道については、少なくとも累計で約230万戸が断水した。特に被害が大きいのは宮城県で約62万戸、次いで茨城県（47万戸）、福島県（42万戸）、千葉県（37万戸）、岩手県（24万戸）となっている。東北地方では揺れ、関東地方では液状化による被害が大きく、水道管の継ぎ目がずれたり、浄水場の送水管が壊れたことで、断水が起きた。8月26日時点で、津波により家屋等が流出した地域等を除いた断水被害は、全て復旧（225万戸）した。

### (3) ガス

都市ガスは、東北、関東地方8県で約40万戸（家屋倒壊等が確認された戸数を除く）が供給停止した。5月3日には復旧対象戸数全ての復旧作業が終了した。

## 4 建物被害

宮城県栗原市では震度7を観測するなど、揺れ自体は大きかったにも関わらず、震度の割に建物被害は少なく、建物倒壊により多数の死傷者を出した阪神淡路大震災とは対照的である。東日本大震災は、細かい早い揺れも伝わる直下型地震ではなく、プレート型地震で、陸地ではゆっくりとした揺れになる。このため、地面と木造建物が一緒に動く状態になり、被害は小さいものになったとみられている。しかし、太平洋沿岸の地域をのみ込んだ津波により多くの建物が倒壊、流失し、警察庁の資料（平成24年3月2日）によると、建物被害は、全壊128,768戸、半壊245,626戸、焼失建物281戸、床上浸水20,427戸、床下浸水15,508戸、非住家被害57,271戸におよぶ。

## 5 道路、交通

震災は交通機関にも大きな被害をもたらしたが、交通の大動脈は当初の予想より早いペースで復旧した。東北自動車道は3月24日、東北新幹線は4月29日には全線が復旧した。

### (1) 道路

道路橋の流出や法面崩落等により、高速道路で15路線、国道で約171区間、県道で540区間が通行止めとなった。宮城県仙台市から三陸沿岸地域を縦走する国道45号線を始め、東北地方を中心に太平洋一帯沿岸部における道路の被害が著しかった。

東北自動車道などの主要道路を中心に3月12日早朝までには、緊急車両の通行を可能とするための仮復旧が概ね完了し、救援車両などが利用可能となった。緊急交通路の指定は順次に解除されていき、3月24日には、東北道、常磐道の交通規制が全面解除された。(三陸道は規制あり)3月12日から24日までの間、緊急通行車両確認標章は約16万3千件発行された。

### (2) 鉄道

地震発生時からJR東日本は新幹線と在来線の運転を

終日見合わせた。関東・首都圏では私鉄と地下鉄の全線が運行を停止し、21時頃には一部の私鉄と地下鉄が運転を再開したものの、首都圏の交通網は完全にマヒした。これにより12万人以上が都内の避難所やターミナル駅で夜を明かした。また、3月14日以降は計画停電の影響により、各路線で運休や減便が行われた。

東北新幹線は、3月15日に東京～那須塩原間で運転が再開され、順次運転区間が拡大された。4月29日には全線で運転が再開された。

5月中旬には津波による被害が甚大で復旧に数年を要する太平洋岸の路線を除き、ほぼ震災前の状態に戻った。

### (3) 空港

仙台空港は津波によって空港全体が冠水して使用不可能になった。その後、自衛隊、アメリカ軍による土砂・瓦礫の除去作業、航空保安設備の復旧作業が行われ、3月16日に一部の滑走路で救援機のための暫定的な使用が開始された。4月13日には仙台～羽田などの一部の便で運航が再開された。



①東北道(矢吹～須賀川)  
(写真提供: NEXCO 東日本)



②常磐道(水戸～那珂)  
(写真提供: NEXCO 東日本)



③仙台空港  
(写真提供: U.S.AIR FOURCE)



④岩手県山田町陸中山田駅



⑤岩手県宮古市 JR 津軽石駅  
(写真提供: 宮古市)



⑥宮城県東松島市 JR 仙石線  
(写真提供: 東松島市)

## 6 医療機関の被害

岩手、宮城、福島3県の病院380施設のうち、全壊10施設、一部損壊290施設であり8割の病院が被害を受け、このうち災害拠点病院では31施設に一部損壊があった。また、診療所は医科・歯科併せて6,633施設のうち、全壊が166施設、一部損壊が1,993施設であり3割強に被害があった。沿岸部に限ると、ほぼ全ての医療機関が機能の全部ないし一部を失った。

### 【病院・診療所の被害状況】

	病院						診療所					
	病院数		全壊		一部損壊		診療所数 (医)	診療所数 (歯)	全壊		一部損壊	
									医科	歯科	医科	歯科
岩手県	94	(11)	3	(0)	59	(11)	927	613	38	46	76	79
宮城県	147	(14)	5	(0)	123	(13)	1,626	1,065	43	32	581	367
福島県	139	(8)	2	(0)	108	(7)	1,483	919	2	5	516	374
合計	380	(33)	10	(0)	290	(31)	4,036	2,597	83	83	1,173	820

括弧は災害拠点病院

データ：厚生労働省



# 国立病院機構における 震災対応

# 1. 被災地への医療支援

国立病院機構では、地震発生直後よりDMATによる災害急性期の医療活動を展開するとともに、切れ目のない医療支援活動のために、3月14日から医療班を継続的に派遣、被災地における診療を行った。平成24年3月27日までの間、約1,710人(のべ約1万人・日)の職員を被災地、被災地域外の避難所、SCU等へ派遣した。また、被災地域の機構病院では、自院が被災している中で被災患者の診療を行った。

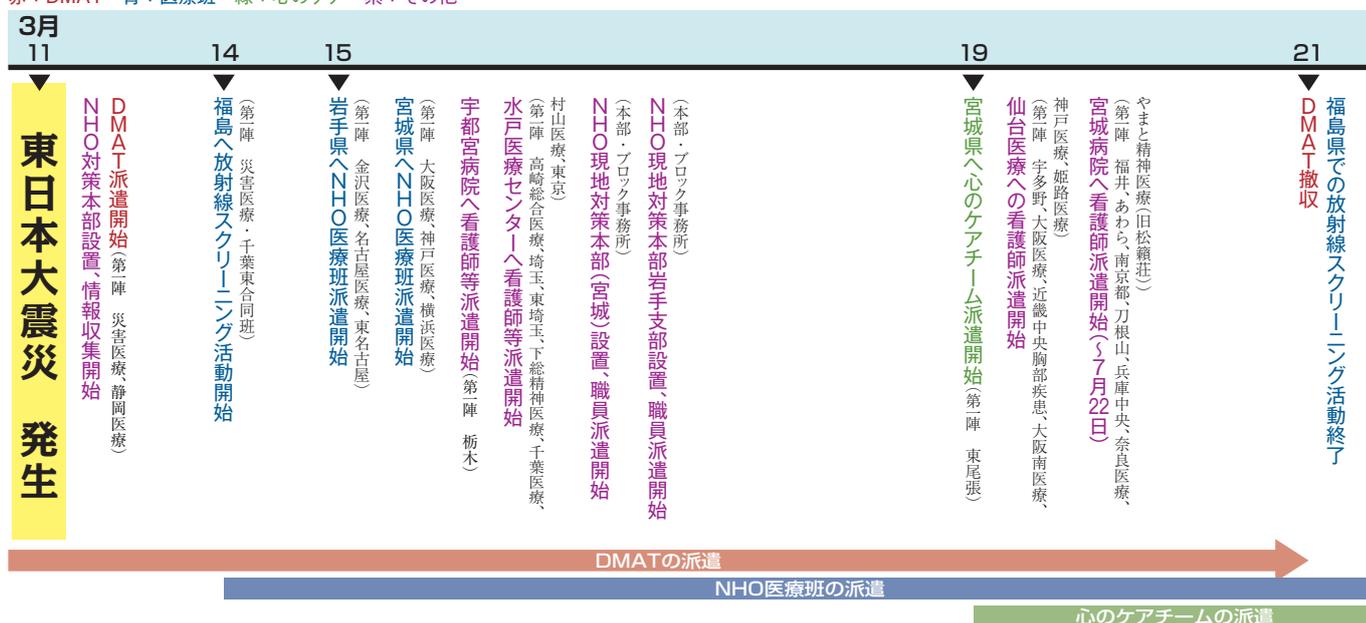
(平成24年3月27日現在)

区分	派遣実績	派遣した機構病院	派遣先
DMAT	35班 約160人	21病院	岩手県、宮城県、福島県、茨城県等
医療班 (放射線スクリーニング班を含む)	156班 約710人	77病院	岩手県、宮城県、福島県
心のケアチーム	106班 約390人	10病院	岩手県、宮城県、福島県
上記以外の医師、看護師等職員	約460人	77病院 本部・ブロック事務所	岩手県、宮城県、福島県、茨城県等
総数	約1,710人※	122病院 本部・ブロック事務所	

※各区分の派遣人数は四捨五入しているため、合計と総数は一致しない。

## 震災発生からの支援活動の経過

赤：DMAT 青：医療班 緑：心のケア 紫：その他



## DMAT・医療班・心のケアチーム等の派遣病院

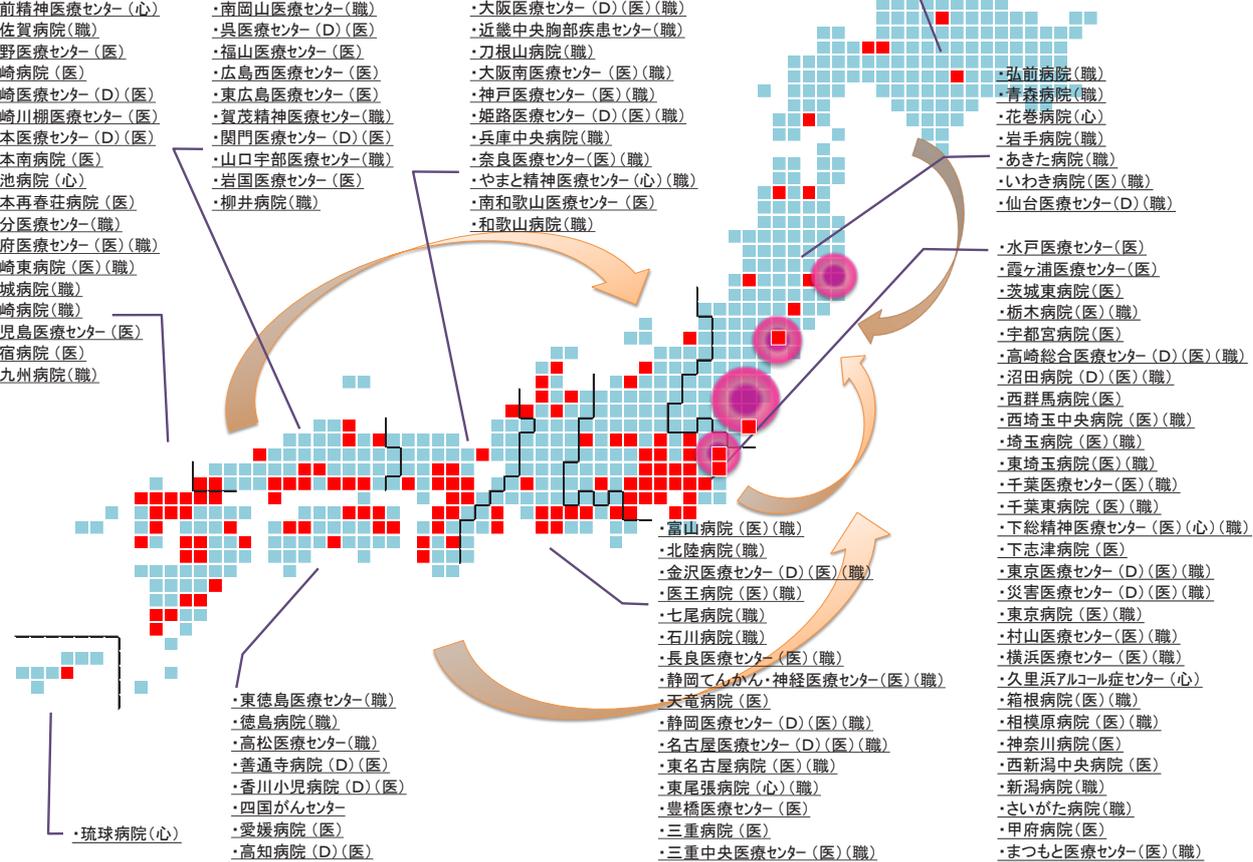
- ・小倉医療センター(医)
- ・九州がんセンター(医)
- ・九州医療センター(D)(医)(職)
- ・福岡病院(医)(職)
- ・福岡東医療センター(医)
- ・肥前精神医療センター(心)
- ・東佐賀病院(職)
- ・嬉野医療センター(医)
- ・長崎病院(医)
- ・長崎医療センター(D)(医)
- ・長崎川棚医療センター(医)
- ・熊本医療センター(D)(医)
- ・熊本南病院(医)
- ・菊池病院(心)
- ・熊本再春荘病院(医)
- ・大分医療センター(職)
- ・別府医療センター(医)(職)
- ・宮崎東病院(医)(職)
- ・都城病院(職)
- ・宮崎病院(職)
- ・鹿児島医療センター(医)
- ・指宿病院(医)
- ・南九州病院(職)

- ・鳥取医療センター(心)
- ・米子医療センター(職)
- ・松江医療センター(職)
- ・浜田医療センター(医)(職)
- ・岡山医療センター(医)
- ・南岡山医療センター(職)
- ・呉医療センター(D)(医)
- ・福山医療センター(医)
- ・広島西医療センター(医)
- ・東広島医療センター(医)
- ・賀茂精神医療センター(職)
- ・関門医療センター(D)(医)
- ・山口宇部医療センター(職)
- ・岩国医療センター(医)
- ・柳井病院(職)

- ・福井病院(職)
- ・あわら病院(職)
- ・京都医療センター(D)(職)
- ・宇多野病院(職)
- ・京都都病院(職)
- ・大阪医療センター(D)(医)(職)
- ・近畿中央胸部疾患センター(職)
- ・刀根山病院(職)
- ・大阪南医療センター(職)
- ・神戸医療センター(医)(職)
- ・奈良医療センター(医)(職)
- ・姫路医療センター(D)(医)(職)
- ・兵庫中央病院(職)
- ・奈良医療センター(医)(職)
- ・やまと精神医療センター(心)(職)
- ・南和歌山医療センター(医)
- ・和歌山病院(職)

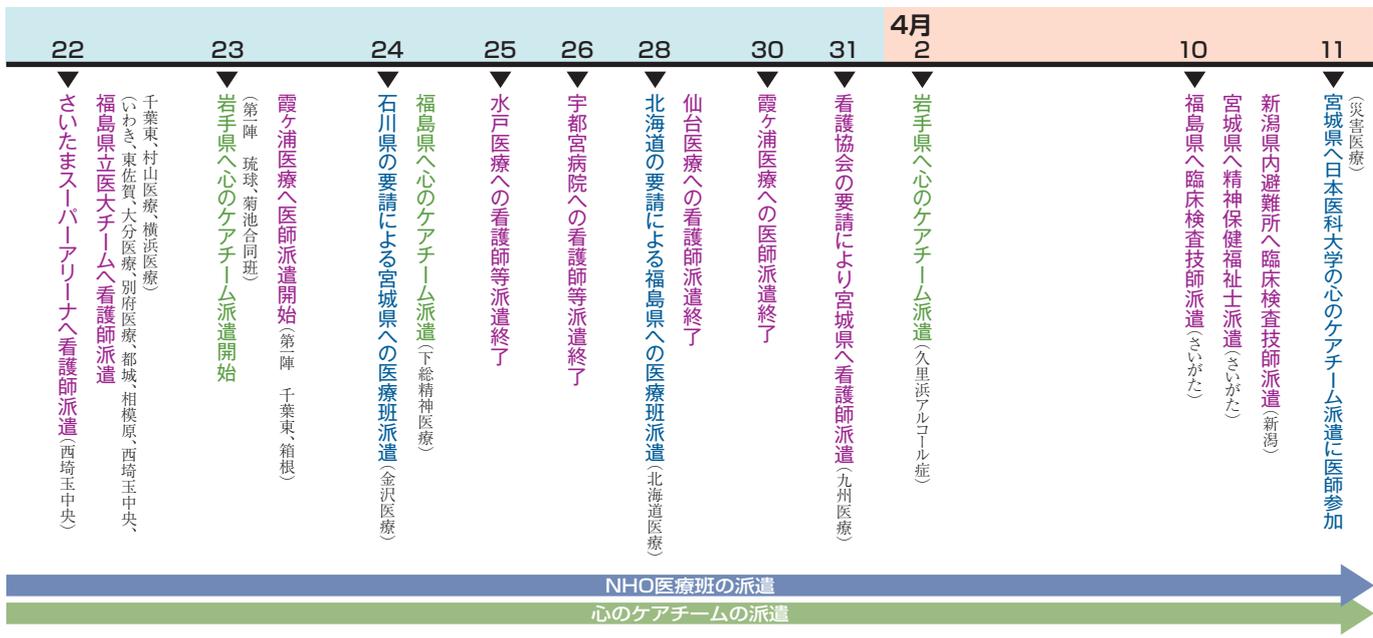
- ・北海道がんセンター(職)
- ・北海道医療センター(D)(医)(職)
- ・函館病院(医)(職)
- ・旭川医療センター(医)(職)
- ・帯広病院(職)

(D) : DMAT  
 (医) : 医療班(放射線スクリーニング班含む)  
 (心) : 心のケアチーム  
 (職) : 上記チーム以外の医師・看護師等職



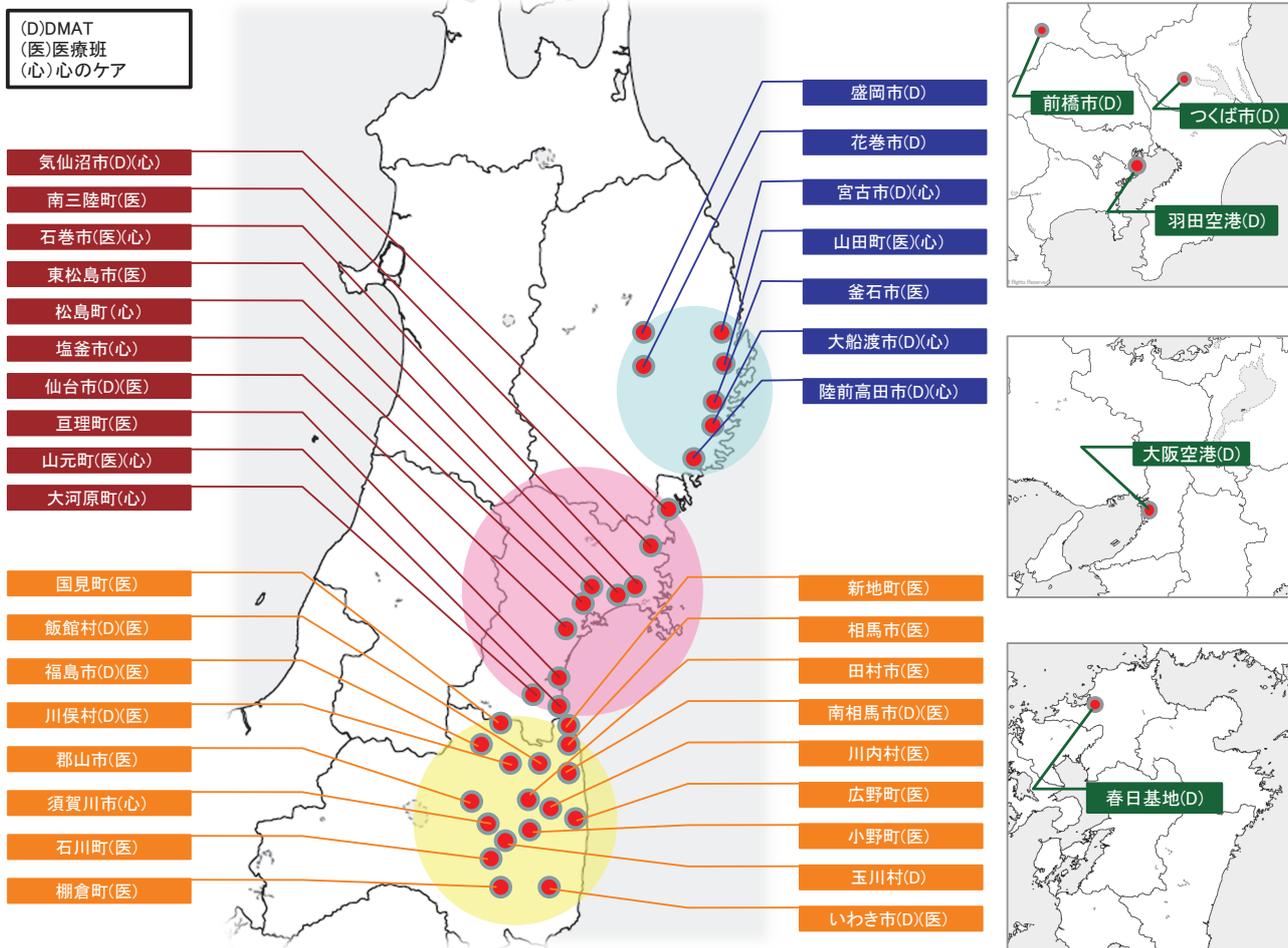
- ・弘前病院(職)
- ・青森病院(職)
- ・花巻病院(心)
- ・岩手病院(職)
- ・あきた病院(職)
- ・いわき病院(医)(職)
- ・仙台医療センター(D)(医)
- ・水戸医療センター(医)
- ・霞ヶ浦医療センター(医)
- ・茨城東病院(職)
- ・栃木病院(医)(職)
- ・宇都宮病院(医)
- ・高崎総合医療センター(D)(医)(職)
- ・沼田病院(D)(医)(職)
- ・西群馬病院(医)
- ・西埼玉中央病院(医)(職)
- ・埼玉病院(医)(職)
- ・東埼玉病院(医)(職)
- ・千葉医療センター(医)(職)
- ・千葉東病院(医)(職)
- ・下総精神医療センター(医)(心)(職)
- ・下志津病院(医)
- ・東京医療センター(D)(医)(職)
- ・災害医療センター(D)(医)(職)
- ・東京病院(医)(職)
- ・村山医療センター(医)(職)
- ・横浜医療センター(医)(職)
- ・久里浜アルコール症センター(心)
- ・箱根病院(医)(職)
- ・相模原病院(医)(職)
- ・神奈川病院(医)
- ・西新潟中央病院(医)
- ・新潟病院(職)
- ・さいがた病院(職)
- ・甲府病院(医)
- ・まつもと医療センター(医)(職)
- ・信州上田医療センター(D)(医)
- ・小諸高原病院(心)

122の機構病院から被災地に職員を派遣し医療支援活動を行うとともに、上記以外の病院でも、医薬品、衛生材料、食糧などの物資を被災地に届け被災病院の支援を行った。

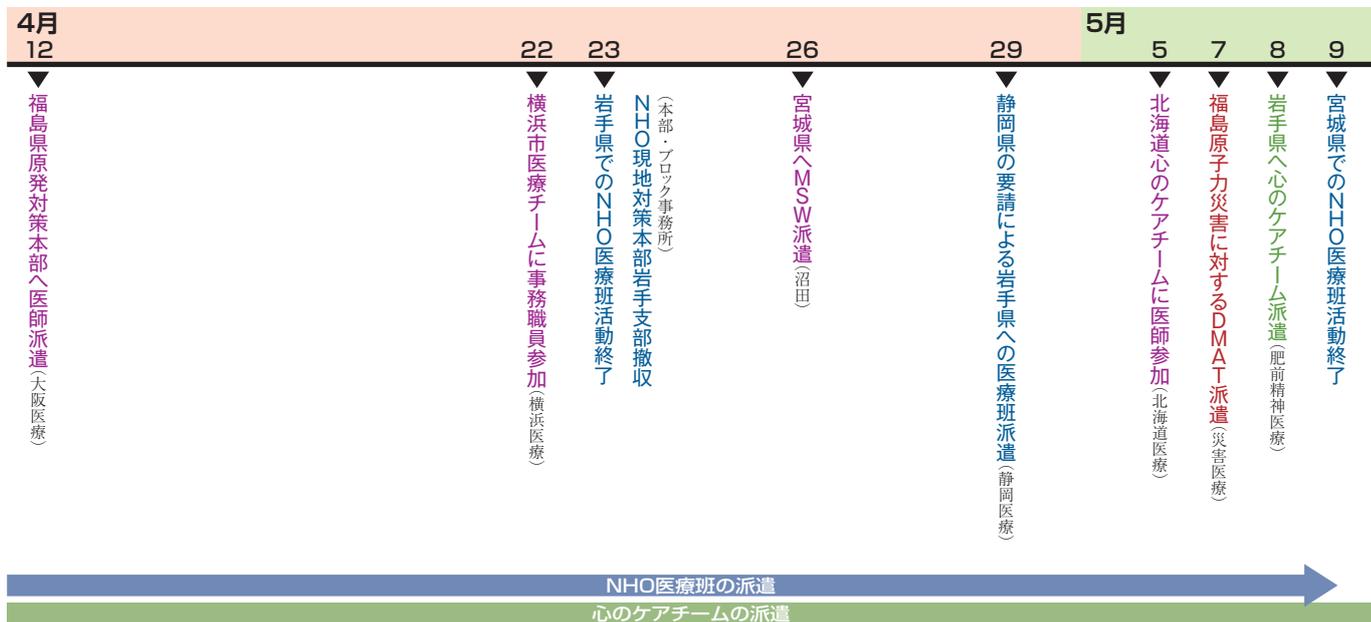


NHO医療班の派遣  
 心のケアチームの派遣

DMAT・医療班（放射線スクリーニング班含む）・心のケアチームの主な活動地域



宮城県、岩手県では、沿岸部の避難所、被災病院等を中心に活動し、福島県では東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射線スクリーニングを行ったため県東部の広い地域で支援活動を実施している。





- ① 矢崎理事長他
- ② 北海道医療センター
- ③ 函館病院
- ④ 旭川医療センター
- ⑤ 花巻病院
- ⑥ 放射線スクリーニング班
- ⑦ 茨城東病院
- ⑧ 下総精神医療センター
- ⑨ 久里浜アルコール症センター
- ⑩ 高崎総合医療センター
- ⑪ 沼田病院
- ⑫ 信州上田医療センター
- ⑬ 西新潟中央病院
- ⑭ 東京医療センター
- ⑮ 医王病院
- ⑯ 金沢医療センター
- ⑰ 三重中央医療センター
- ⑱ 静岡医療センター
- ⑲ 長良医療センター
- ⑳ 東海北陸ブロック管内病院
- ㉑ 名古屋病院
- ㉒ 豊橋医療センター
- ㉓ 名古屋医療センター
- ㉔ 京都医療センター
- ㉕ やまと精神医療センター
- ㉖ 近畿ブロック管内病院
- ㉗ 神戸医療センター
- ㉘ 奈良医療センター
- ㉙ 南和歌山医療センター
- ㉚ 浜田医療センター
- ㉛ 愛媛病院
- ㉜ 岩国医療センター
- ㉝ 呉医療センター
- ㉞ 中国四国ブロック管内病院
- ㉟ 福山医療センター
- ㊱ 別府医療、災害医療
- ㊲ 菊池病院
- ㊳ 鹿児島医療センター
- ㊴ 長崎病院・指宿病院
- ㊵ 肥前精神医療センター
- ㊶ 長崎医療センター



# 1-1 DMAT の活動

## 国立病院機構災害医療センターが日本 DMAT 事務局として全国の災害派遣医療チームを指揮し、急性期医療をリード

国立病院機構災害医療センターにおいては、日本 DMAT 事務局として、全国から被災地に参集した約 340 の災害派遣医療チーム (DMAT) の活動全体を指揮し、数百人規模の被災医療機関の入院患者の搬送や、重傷者等のトリアージ、広域患者搬送等を実施した。

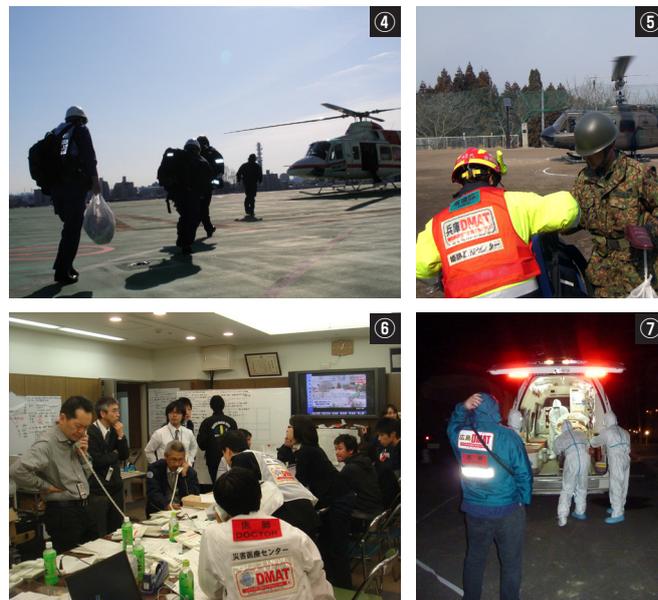
具体的には、自衛隊機等 8 機を調整し、全国から DMAT 78 チームを空路で短期間に被災地に参集させるとともに、災害調査ヘリ 4 機を稼働させて被災状況の把握に努めた。また、19 名の重症患者に対し、自衛隊機 5 機による被災地外への広域医療搬送がわが国で初めて行われた。さらに石巻市立病院の 100 名以上の患者搬送、東京電力福島第一原発の 30 km 圏内の入院患者 300 名以上の搬送等を指揮した。

国立病院機構病院からも地震発生直後より、全国の DMAT の 1 割にあたる 35 の DMAT (21 病院：約 160 名の医師・看護師等) を被災地に派遣した。主に被災当日から 3 日目までに、被災地から全国各地への航空搬送の救護基地とされた霞目自衛駐屯地 (宮城県仙台市)、いわて花巻空港 (岩手県花巻市) 等での活動や、仙台医療センター、福島県立医大などの被災地の中核病院に続々と搬送される重傷者等のトリアージ活動等を実施した。

今回の震災は、津波による広域な被害により、交通網の断裂による孤立、携帯電話等の通信機器の不通による情報不足、食料・燃料不足などの過酷な環境などの要因が重なり、特に難しい活動を強いられた。

- ①、② 仙台医療センター (仙台市霞目駐屯地)
- ③ 北海道医療センター (いわて花巻空港)
- ④ 災害医療センター (ヘリポートから出動)

- ⑤ 姫路医療センター (岩手県釜石市)
- ⑥ 災害医療センター (日本 DMAT 事務局)
- ⑦ 呉医療センター (茨城県)



災害医療センターにある厚生労働省DMAT事務局からE-MIS（災害発生時の関係者への一斉連絡、被災地内外の医療機関の患者受入情報の集約・提供するシステム）を通じて15時10分に全国のDMAT隊員に待機要請をかけ、更に16時48分に各DMATへ次のような出動指示を出した。

本日14:46に発生した宮城県三陸沖を震源とする震度7の地震につきまして、宮城県、福島県の各県より全国のDMATに派遣要請がありました。

宮城県の参集拠点は仙台医療センター

福島県の参集拠点は福島県立医科大学となっております。

全国のDMAT隊員におかれましては派遣の可否、並びに活動状況をEMISに入力をおねがいします。

厚生労働省医政局 DMAT 事務局

この時までには、待機していた10班を含む国立病院機構の各DMAT班が参集拠点とされた仙台医療センター、福島県立医科大学に向けて出動した。

なお、17時36分に茨城県は筑波メディカルセンターが、

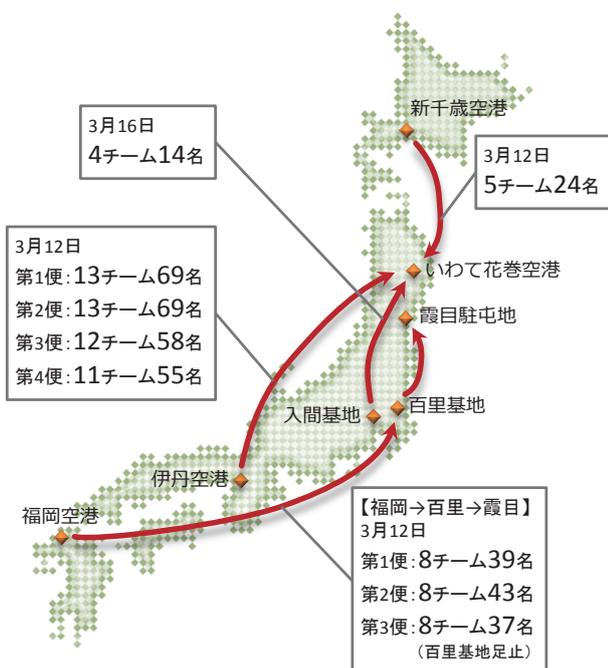
岩手県は岩手医科大学付属病院が参集拠点に追加された。また、岩手県は翌1時15分に岩手県立中部病院の1か所が更に追加となった。

津波で多くの人々が溺死した本震災では、DMAT活動で想定している48時間以内における超急性期の外傷患者は少なかったといわれている一方、これまで実施したことが無い自衛隊機による空路参集、重症患者の広域医療搬送、多数の入院患者の避難などが行われた。

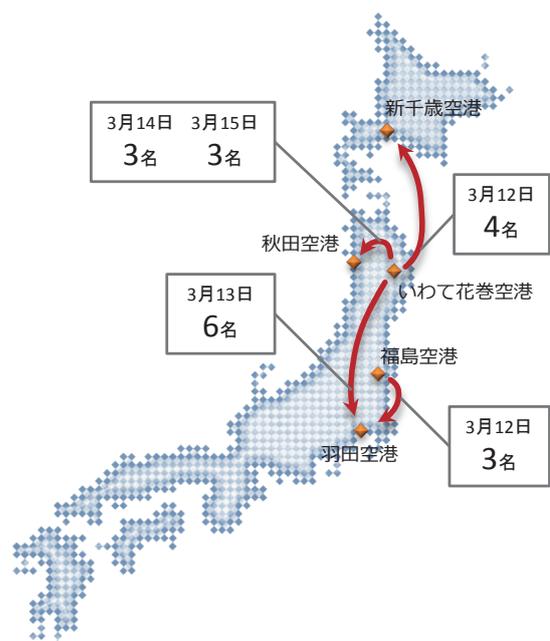
空路参集は、自衛隊C130輸送機により、千歳空港→いわて花巻空港、入間基地→いわて花巻空港、福岡空港→百里基地→霞目駐屯地、伊丹空港→いわて花巻空港へ82チーム408名が移動した。国立病院機構のDMATでは、北海道医療センター、京都医療センター、大阪医療センター、姫路医療センター、関門医療センター、九州医療センター、熊本医療センターが空路により12日に被災地入りした。

また、広域搬送は、いわて花巻空港、福島空港から19名の搬送が実施され、このうち羽田空港に搬送された1名を東京医療センターが受け入れた。

【DMATの空路参集】



【本震災での広域医療搬送】



## 1-1 DMATの活動

### (1) 宮城県におけるDMATの活動

宮城県内におけるDMAT活動の拠点、参集拠点とされた仙台医療センターと、仙台空港が津波で水没したために航空搬送の拠点とされた仙台市内の陸上自衛隊霞目駐屯地に設置されたSCU (Staging Care Unit: 広域搬送の拠点基地) の2か所であった。

霞目駐屯地では、被災翌日の3月12日から14日にかけて、仙台医療センターと、熊本医療センター、九州医療センター、金沢医療センターの計4班のDMATが他の団体から派遣されたDMATと共に、広域航空搬送及び県内での域内搬送、トリアージ等を実施した。仙台医療センター内では、金沢医療センターの2班が3月12日から3月13日にかけて救命救急外来にてトリアージ活動を実施した。

また、3月12日には災害医療センターの調査ヘリ班が宮城県庁2階講堂に設置された宮城県災害対策本部に入り情報収集に努めた。東京DMATとして派遣された東京医療センターの班は気仙沼市営球場にて航空搬送された患者のトリアージを実施した他、気仙沼市立病院の支援を行った。更に3月13日には、名古屋医療センターの班が仙台市民病院にて支援活動を実施した。

#### 【DMAT派遣病院】

主な活動地域	派遣病院
霞目自衛隊駐屯地	仙台医療センター 金沢医療センター① 九州医療センター① 熊本医療センター
仙台医療センター	金沢医療センター②
仙台市立病院	名古屋医療センター②
宮城県庁	災害医療センター① 災害医療センター-調査ヘリ②
気仙沼市	東京医療センター (東京都DMATに派遣)

なお、被災地への交通手段の確保は各DMAT隊に委ねられており、例えば金沢医療センターの班は被災2時間半後の、3月11日17時10分に車で金沢を出発し、翌12日早朝より仙台医療センターにて活動を開始。九州医療センターと熊本医療センターの両班は3月12日早朝に福岡空港を自衛隊の航空機により出発し、茨城県百里基地経由で昼頃には仙台入りした。

#### 日本DMAT史上最大規模の医療航空搬送ミッションを遂行

仙台医療センター 救命救急センター長 山田康雄

震災直後、宮城県庁災害対策本部では仙台市の陸上自衛隊・霞目駐屯地にSCUの設置を決定、当院に霞目SCU統括チームの派遣要請がありました。当院DMATは12日夜明け、陸上自衛隊東北方面衛生隊と共にSCUを開設しました。霞目SCUには、DMAT活動拠点本部(当院に設置)からのチームに加え、九州からも空路24チーム(120名)が直接派遣されて来ました。しかし津波災害の特殊性ゆえ、重症外傷やクラッシュ症候群などの広域搬送対象者は少なく、6名の域外搬送の後、3月13日に九州チームは撤収となりました。ところがその後、沿岸地域からのヘリ救出搬入が急増し、特に3月14日には、水没した石巻市立病院からの患者一斉救出を含め1日で172名を搬入、沿岸の津波被災地に比べまだダメージが少なかった仙台市内の病院を中心に分散搬送を行いました。3月16日までの5日間で211名の傷病者に対応するという日本DMAT史上最大規模の医療航空搬送ミッションを遂行し、霞目SCUから撤収しました。

(広報誌「NEWS仙台医療センター」4・5月合併号の記事を掲載)

【宮城県での DMAT 活動期間と主な活動場所】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	
仙台医療センター	出発	霞目駐屯地				撤収	
東京医療センター(東京DMAT)		出発	気仙沼市営球場	撤収			
災害医療センター調査ヘリ2	東北地方太平洋沖地震発生				3名合流		
災害医療センター第1班		出発	宮城県庁	宮城県庁・霞目駐屯地		撤収	
災害医療センター第1班			茨城県で活動	仙台医療センター			
金沢医療センター第1班		出発	仙台医療センター	霞目駐屯地	撤収		
金沢医療センター第2班			出発	仙台医療センター		撤収	
名古屋医療センター第2班				茨城県で活動	仙台医療センター・ 仙台市立病院	仙台市立病院	撤収
九州医療センター第1班		出発	霞目駐屯地		撤収		
熊本医療センター		出発	霞目駐屯地		撤収		

- ①仙台医療センター（霞目駐屯地）
- ②金沢医療センター（霞目駐屯地）
- ③金沢医療センター（仙台医療センター内）
- ④⑤九州医療センター（霞目駐屯地）
- ⑥仙台医療センター（霞目駐屯地）
- ⑦⑧東京医療センター（気仙沼市）
- ⑨宮城県 DMAT 本部



# 1-1 DMATの活動

## (2) 岩手県におけるDMATの活動

岩手県におけるDMAT参集拠点は、盛岡市内の岩手医科大学であり、活動拠点はSCUが設置されたいわて花巻空港となった。

北海道医療センター、関門医療センター、大阪医療センター、京都医療センターの4班は3月12日から13日にかけて、主にいわて花巻空港の格納庫に設置されたSCUで活動を実施した。いわて花巻空港からは、新千歳空港へ4名、秋田空港へ6名、羽田空港へ6名が搬送された。なお、京都医療センターDMATは撤収の際、持参した機材を物資が不足していた仙台医療センターに届け帰路についた。

姫路医療センターは、3月12日にいわて花巻空港SCU活動を行うと共に、情報が不足していた県立大船渡病院の状況を把握するためにヘリコプターで移動し建物の被害、ライフライン、マンパワーの状況を調査した。翌13日には孤立した釜石市箱崎白浜地区の住民の避難を支援した。

信州上田医療センターは、3月12日に県立宮古病院の受け入れ可能状況、ライフラインの状況等を調査し、今後の患者搬送をDMAT調整本部と検討をした。その後、搬送トリアージ等を行い、13日に引き継ぎを行い、宮古病院から撤収した。沼田病院は、県立大船渡病院で救急搬送の対応を行っ

た。高知病院は、3月18日から陸前高田市内の避難所、県立病院の仮診療所、老健施設等で活動した。

### 【DMAT派遣病院】

主な活動地域	派遣病院
いわて花巻空港	北海道医療センター、京都医療センター、大阪医療センター、姫路医療センター、関門医療センター
県立宮古病院	信州上田医療センター
岩手医大	災害医療センター-調査ヘリ①
大船渡病院	沼田病院①
陸前高田市	高知病院

また、災害医療センターの調査ヘリは3月12日朝に岩手医科大学に到着し、被災状況の調査を実施した。

現地への交通手段としては、大阪医療センター、京都医療センター、姫路医療センターの各班は伊丹空港より自衛隊機等にて3月12日の早朝にいわて花巻空港入りした。関門医療センターは陸路で伊丹空港まで移動し、同様に自衛隊機に搭乗した。信州上田医療センターは車で出発後、3回参集地変更の連絡を受けながら岩手県立消防学校に到着。そこから自衛隊機で宮古病院に移動した。

- ①大阪医療センター（いわて花巻空港）
- ②関門医療センター（いわて花巻空港）
- ③姫路医療センター（いわて花巻空港 SCU 本部）
- ④北海道医療センター（自衛隊輸送機内）
- ⑤関門医療センター（自衛隊輸送機により移動）

- ⑥県立大船渡病院
- ⑦、⑧姫路医療センター（釜石市白浜地区）
- ⑨大阪医療センター（いわて花巻空港）
- ⑩、⑪信州上田医療センター（県立宮古病院）
- ⑫高知病院（陸前高田市）
- ⑬京都医療センター（いわて花巻空港）



沼田病院は仙台医療センターを目指し病院を車で出発したが、途中で岩手県に向かうよう指示を受けた。高知病

院は陸路により約1,440kmの道のりを25時間かけて被災地入りした。

【岩手県におけるDMAT 活動期間と主な活動場所】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日	3月21日
北海道医療センター		出発 いわて花巻空港・千歳空港	撤収								
沼田病院第1班				出発 岩手県大船渡病院							撤収
災害医療センター調査へり			福島空港 宮城飛行場(仮設)	岩手県庁			1名放射線スクリーニング班へ				撤収
信州上田医療センター (旧長野病院)		出発 岩手県消防学校・ 岩手県立宮古病院	岩手県立宮古 病院	撤収							
京都医療センター		出発 いわて花巻空港									撤収
大阪医療センター		出発 いわて花巻空港									撤収
姫路医療センター		出発 いわて花巻空港・岩 手県立大船渡病院	いわて花巻空港・ 大槌町	いわて花巻空港							撤収
関門医療センター		出発 いわて花巻空港									撤収
高知病院								出発 陸前高田市仮設診療所			撤収

【関門医療センター DMAT の移動経路】



【高知病院 DMAT の移動経路】



# 1-1 DMATの活動

## (3) 福島県及び茨城県等におけるDMATの活動

### (1) 福島県への派遣

福島県内におけるDMAT参集拠点は、福島市内の福島県立医科大学であり、香川小児病院と善通寺病院の2班が3月12日に福島空港のSCUで活動した。福島空港からは患者3名が羽田空港に搬送された。

災害医療センター第3班及び静岡医療センターは、原子力発電所の事故のため、30km圏内の医療機関に残る患者を圏外に搬送する際のチェックポイントで被ばくスクリーニング等を行った。その後、静岡医療センターは福島県立医科大学病院にてSCUを立ち上げトリアージ及び搬送を行った。

呉医療センターは10km圏内から二本松男女共生センターに避難してきた住民に対しスクリーニングを行った後、

### 【福島県でのDMAT活動期間と主な活動場所】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日	3月20日	3月21日
災害医療センター調査ヘリ	出発 福島空港	宮城県庁・岩手県庁へ									
災害医療センター第2班	出発 東北地方太平洋沖地震発生	福島県立医大病院・磐城共立病院	いわき病院 搬取								
災害医療センター第3班								出発 福島県庁	光洋高校	福島医大・次町病院・サテライトかしま	サテライトかしま 搬取
静岡医療センター第2班								出発 飯館村公民館	川俣高校	福島医大・サテライトかしま	サテライトかしま 搬取
呉医療センター第1班	出発 自衛隊輸送艦にて移動		福島県立医大病院 二本松男女共生センター	搬取							
善通寺病院	出発	福島空港SCU	搬取								
香川小児病院	出発	福島空港SCU	搬取								

DMAT	...	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	...	5月17日	5月18日	5月19日
災害医療センター第4班		出発 磐城共立病院	搬取									
災害医療センター第5班									出発 福島県内	搬取		

### 【DMAT 派遣病院】

主な活動地域	派遣病院
福島空港	善通寺病院、香川小児病院
いわき病院	災害医療センター②
二本松 男女共生センター	呉医療センター①
飯館村公民館 サテライトかしま	災害医療センター③ 静岡医療センター②
磐城共立病院	災害医療センター④、⑤

福島県立医科大学病院において統括DMAT業務に従事した。災害医療センター第2班は福島県立医科大学で情報収集を行うとともに、3月13日にはいわき病院の支援を実施した。

① 呉医療センター（福島県二本松市）

② 呉医療センター（自衛隊輸送艦での移動）

③④ 善通寺病院・香川小児病院（福島空港）

⑤ 災害医療センター（茨城県）

⑥ 高崎総合医療センター（茨城県）

⑦⑧ 名古屋医療センター（茨城県）



(2) 茨城県その他地域への派遣

茨城県内におけるDMAT 参集拠点は、筑波メディカルセンターとされた。被災翌日の早朝には、災害医療センター、高崎総合医療センター及び静岡医療センターの3班が、被災で機能低下した水戸共同病院の患者多数を水戸医療センター等に搬送した。また、名古屋医療センターの班は、被災した北茨城市立総合病院の支援及び入院患者を高萩共同病院、霞ヶ浦医療センターへ搬送した。

東京医療センターの班は12、13日に羽田空港でSCU 支援を行った。羽田空港では福島空港から3名、いわて花巻空港から6名の搬送があり、うち1名を東京医療センターが受け入れた。

呉医療センターは大阪空港に、九州医療センター第2班及び長崎医療センターは航空自衛隊春日基地（福岡県春日市）へSCU 支援を行うためDMATを派遣したが、結果的には関東以西への広域医療搬送は行われなかった。なお、春日基地SCUの設営等に当たっては、熊本

医療センターの医師が統括DMATとしての任務を担った。

高崎総合医療センター及び沼田病院のDMATは、群馬県前橋市にある産業技術センター内において福島県大町病院から搬送された患者を県内の医療機関に分散させるためのトリアージを行った。

【DMAT 派遣病院】

主な活動地域	派遣病院
筑波メディカルセンター	高崎総合医療センター①、静岡医療センター①、名古屋医療センター①
産業技術センター（群馬県前橋市）	高崎総合医療センター②、沼田病院②（群馬県DMATに派遣）
羽田空港	東京医療センター
航空自衛隊春日基地（福岡県春日市）	九州医療センター②、長崎医療センター
大阪空港	呉医療センター②

【茨城県等でのDMAT 活動期間と主な活動場】

DMAT	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	...	3月21日
高崎総合医療センター第1班	出発 筑波メディカルセンター・水戸協同病院	撤収				
東京医療センター		出発 羽田空港SCU	撤収			
災害医療センター第1班	出発 筑波メディカルセンター・水戸協同病院		宮城県へ			
静岡医療センター第1班	出発 筑波メディカルセンター・水戸協同病院	撤収				
名古屋医療センター第1班	出発 北茨城市立総合病院		撤収			
名古屋医療センター第2班		出発	筑波メディカルセンター・茨城県那珂市役所	仙台市立病院へ		
呉医療センター第2班		出発 大阪空港	撤収			
九州医療センター第2班			出発 春日基地	撤収		
長崎医療センター		出発 春日基地	撤収			
高崎総合医療センター第2班（群馬県DMAT）					出発 群馬県産業技術センター	撤収
沼田病院第2班（群馬県DMAT）					出発 群馬県産業技術センター	撤収

- ⑨ 静岡医療センター（筑波メディカルセンター）
- ⑩⑪ 高崎総合医療センター・沼田病院（群馬県産業技術センター）
- ⑫⑬ 東京医療センター（羽田空港）



## 1-2 医療班の派遣

DMATによる災害急性期の対応が終了した後も引き続き切れ目のない被災地への医療支援を行うため、被災地に向かう移動ルート、燃料の確保が困難な状況の中、医療班を3月14日より全国から岩手県、宮城県、福島県へ156チーム（約710名）を順次派遣し、救護所での診療や巡回診療等を実施した。

被災地では自治体も避難所の状況、医療ニーズの把握が困難だったため、NHO現地対策本部が被災現場を巡って、状況確認、情報収集、自治体や地元医師会等との調整をし、活動エリアを定めて救護所の立ち上げ等を行った。

医療機関が大きな被害を負った地域では、長期的な医療班の支援が求められ、国立病院機構は全国ネットワークにより継続的な医療班の派遣が可能であることから、その地域を統括する機関としての役割を担い、自衛隊等他の機関と連携しながら活動した。

本震災の支援活動として東京電力福島第一発電所事故による原子力災害への対応も行われた。メンバーを放射線医師、放射線技師等で編成し、人体に問題となる量の汚染がないことを確認するために福島県の住民に対

して放射線被ばくスクリーニングを行った。また、原則立ち入りが禁止された警戒区域（原子力発電所から半径20km圏内）の住民が一時帰宅する際の中継基地で体調不良者への診療等を行うため医療班を派遣した。

医療班が使用する医薬品に関しては、当初は各医療班が持参した物を中心に活用していたが、被災地の医薬品の流通が回復すると共に、被災県や中核病院からの供給体制が構築された。

医療班による支援活動については、被災を受けた地域の開業医等既存の医療資源の復興や、避難所廻りの巡回バスの運行による医療機関へのアクセス向上等により医療ニーズの減少が起きていること、避難所環境の改善等を総合的に判断して、一定の期間を持って支援活動を終了した。

①岡山医療センター（宮城県東松島市鳴瀬第一中学校）



②仙台医療センター（仙台市岡田小学校）



③金沢医療センター（宮城県石巻市）



④災害医療センター（福島県での放射線スクリーニング）



⑤下志津病院（福島県での放射線スクリーニング）



震災直後、冬型の気圧配置が強まり東北地方は例年になく厳しい寒さが続き積雪もあった。初期に派遣された医療班は、凍結、陥没など道路状況が悪い中での移動となり、被災地入りするにも時間と労力を消耗した。また、報道で津波の映像を見ているとは言え、家屋の木材や

壊れた車が散乱し瓦礫の山と化した光景、潮と焦げ臭さが混ざったにおいが鼻に付く沿岸部の状況を目の当たりにし、不安と焦燥感を募らせながら活動開始を余儀なくされた。

【名古屋医療センター医療班の移動経路】



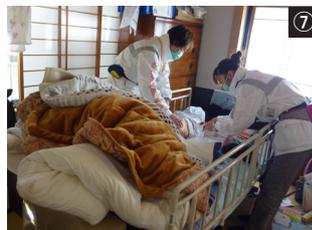
【善通寺病院医療班の移動経路】



⑥名古屋医療センター（岩手県山田町山田南小学校）



⑦三重中央医療センター（岩手県釜石市での個人宅訪問）



⑧千葉医療センター（岩手県宮古市）



⑨岩手県山田南小学校での医療班全体ミーティング



⑩放射線スクリーニング班（福島県）





国立病院機構への直接の要請の他にも、所在する地方自治体からの要請を受けた7病院（北海道医療センター、横浜医療センター、信州上田医療センター、金沢

医療センター、姫路医療センター、奈良医療センター、香川小児病院）から15班、75名を宮城県に派遣した。

【地方自治体の要請による医療班の派遣】

病院名	活動地域	活動期間	主な活動内容
北海道医療センター	気仙沼市	5月23日～5月27日	気仙沼市立本吉病院を中心に、診療活動、巡回活動を実施
横浜医療センター	気仙沼市	① 4月10日～4月13日 ② 5月22日～5月25日 ③ 6月8日～6月11日	避難所の巡回診療
信州上田医療センター	石巻市	① 3月25日～26日 ② 3月31日～4月1日 ③ 4月6日～7日 ④ 4月12日～14日	青葉中学校救護所での診療
金沢医療センター	石巻市	① 3月23日～3月25日 ② 4月2日～4月4日 ③ 5月13日～5月16日 ④ 7月18日～7月21日	住吉小学校内救護所での診療、各避難所の巡回診療 石巻赤十字病院を拠点に石巻市雄勝地区の巡回診療 石巻赤十字病院を拠点に石巻市河北地区の巡回診療 石巻市北上町にある橋浦診療所での診察
姫路医療センター	石巻市	4月23日～5月2日	避難所救護所での診療
奈良医療センター	気仙沼市	4月12日～16日	小原木中学校救護所での診療
香川小児病院	南三陸町	① 3月27日～3月30日 ② 4月4日～4月7日	避難所の巡回診療

①宮崎東病院（山元町坂元中学校）



②香川小児病院（南三陸町）



③奈良医療センター（気仙沼市小原木中学校）



④北海道医療センター（気仙沼市立本吉病院外来）

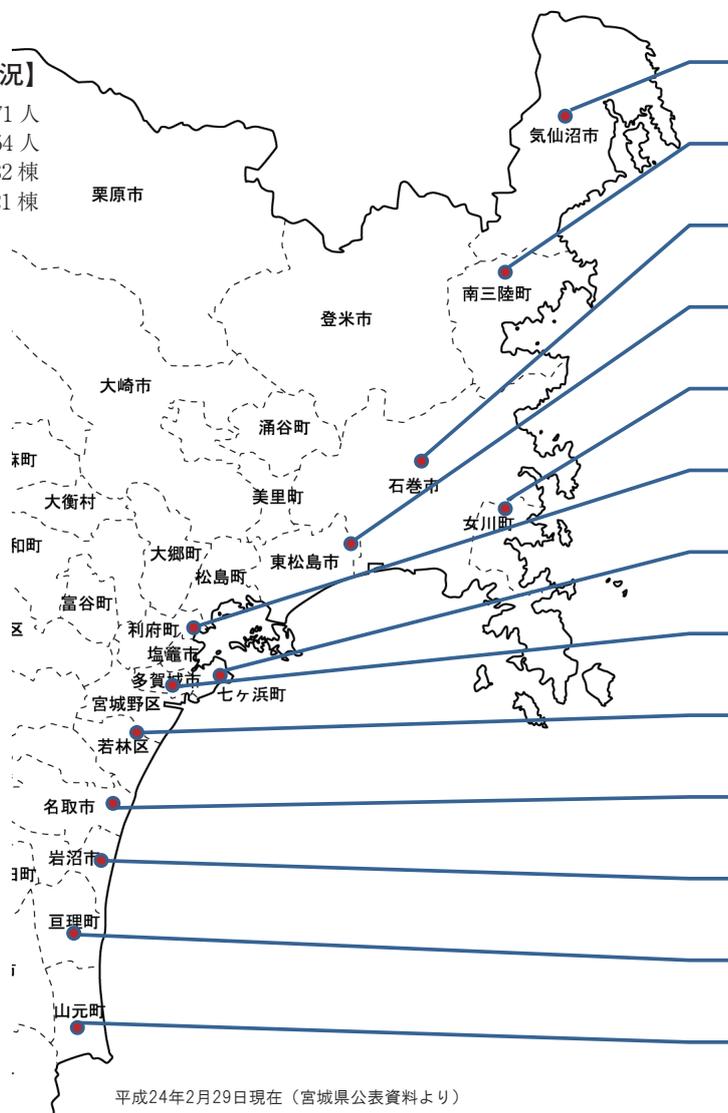


⑤金沢医療センター（石巻市雄勝総合支所）



【宮城県の被害状況】

死者： 9,471人  
 行方不明者： 1,754人  
 全壊住家： 83,932棟  
 半壊住家： 138,721棟



気仙沼市	死者1,030人、行方不明者338人 全壊・半壊住家11,039棟
南三陸町	死者565人、行方不明者310人 全壊・半壊住家3,311棟
石巻市	死者3,182人、行方不明者557人 全壊・半壊住家33,378棟
東松島市	死者1,047人、行方不明者66人 全壊・半壊住家11,012棟
女川町	死者576人、行方不明者347人 全壊・半壊住家3,261棟
利府町	死者46人、行方不明者0人 全壊・半壊住家951棟
七ヶ浜町	死者70人、行方不明者5人 全壊・半壊住家1,303棟
多賀城市	死者188人、行方不明者1人 全壊・半壊住家5,335棟
仙台市	死者704人、行方不明者33人 全壊・半壊住家124,608棟
名取市	死者911人、行方不明者55人 全壊・半壊住家39,030
岩沼市	死者182人、行方不明者1人 全壊・半壊住家2,165棟
亶理町	死者257人、行方不明者12人 全壊・半壊住家3,353棟
山元町	死者671人、行方不明者19人 全壊・半壊住家3,296棟

平成24年2月29日現在（宮城県公表資料より）

- ① 仙台医療センター（仙台市高砂中学校）
- ② 小倉医療センター（山元町保健センター）
- ③ 長崎川棚医療センター・熊本南病院（山元町坂元中学校）
- ④ 奈良医療センター（気仙沼市小原木中学校）
- ⑤ 大阪医療センター（東松島市大塚地区コミュニティセンター）
- ⑥ 姫路医療センター（石巻市鹿妻小学校）
- ⑦ 香川小児病院（南三陸町）
- ⑧ 金沢医療センター（石巻市住吉小学校）



## 鳴瀬地区（宮城県東松島市）

(1) 人口：1.1万人

(2) 避難所：15か所（3月23日時点）

施設名	避難者数
①鳴瀬第一中学校	280
②小野小学校	120
③鳴瀬庁舎	200
④小野市民センター	270
⑤定林寺	110
⑥浅井地区センター	77
⑦中下地区センター	15
⑧大塚地区センター	160
⑨肘曲地区センター	5
⑩川下地区センター	71
⑪上下堤地区センター	52
⑫往環地区センター	30
⑬品井沼	97
⑭デイサービスセンター百合の里	19
⑮宮戸小学校	720

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

### (3) 活動経過

3月17日：東松島地域の医療ニーズを把握

3月18日：東松島保健センター・各避難所の情報収集及び診療開始（岡山医療センター班）

3月19日：東松島保健センターと方針を相談し、1室を活動の地域拠点として借りる

3月20日：日赤石井医師と今後の連携を相談

3月21日：国際班は石巻日赤の朝夕会議出席開始

3月23日：NHO 1班、国際医療研究センター 1班による巡回診療

4月27日：呉医療センター班、国際医療研究センター 1班による巡回診療  
NHO 医療班派遣終了

4月28日：国際医療研究センター 1班体制による巡回診療

### (4) 地域の概要

仙台市の北東30km、石巻市の南西に位置する鳴瀬地域は、地震による津波で甚大な被害を受けた。

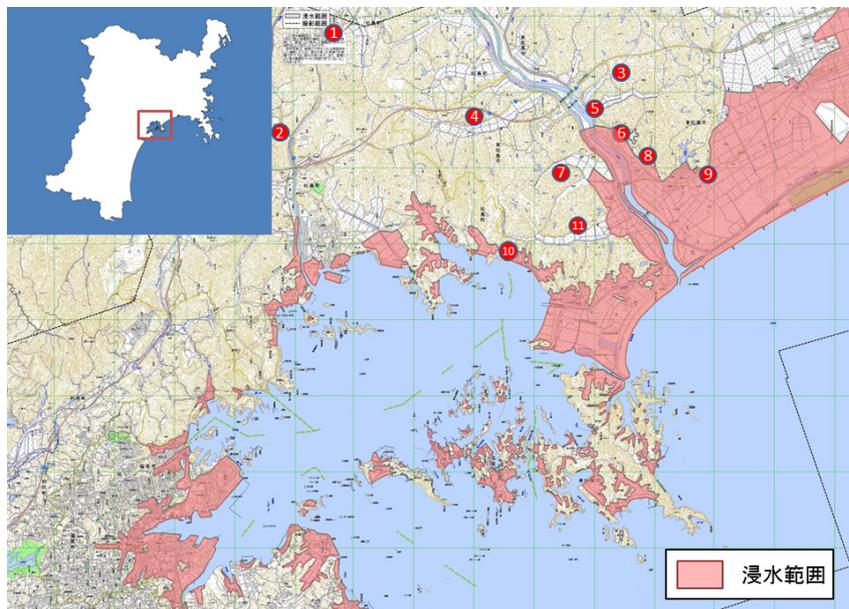
地域の最南端の海沿いに位置する野蒜（のびる）地区は津波により特に壊滅的な打撃を受けた。被災1か月後においても建造物が流出した平原に、ところどころ流れ着いた車やボート、木などが放置されたままになっている状況であった。海沿いを走る国道45号線と、並行して走るJR仙石線の線路も津波で襲われ通行が不能となった。国道は早くから自衛隊により瓦礫が除去され通行が可能となったが、線路上の瓦礫や車は除去されず長く放置されたままであった。



- ①岡山医療センター（鳴瀬第一中学校）
- ②広島西医療センター（品井沼農村環境改善センター）
- ③岩国医療センター（矢本保健センター）
- ④南和歌山医療センター（定林寺）

【東松島市での活動地域】

- ① 品井沼農村環境改善センター
- ② 町民の森野外活動センター
- ③ デイサービスセンター百合の里
- ④ 上下堤創作センター
- ⑤ 鳴瀬第一中学校
- ⑥ ケアハウスはまなすの里
- ⑦ 浅井地区センター
- ⑧ 小野市民センター
- ⑨ 牛網地区学習等供用施設
- ⑩ 大塚地区コミュニティセンター
- ⑪ 定林寺



浸水範囲概況図：国土地理院

東松島市鳴瀬地区（旧鳴瀬町）は、石巻二次医療圏と仙台二次医療圏の境に位置し、石巻赤十字病院と坂総合病院の二つの中規模病院のアクセスの谷間の地域であり、病院はなく3つの診療所が開業していた。しかし震災による津波で開業医2名は亡くなり、残る1名も避難所生活となるなど地域の医療資源の復興の見通しが立たない状況であった。

また、ガソリンの供給状況が悪く、多くの住民は避難所等から遠方の医療機関へアクセスできない状況であった。隣接する矢本地区では、小規模の真壁病院のみ診療を実施していたが、多くの患者が訪れ診療過剰ぎみとなっていた。

一方、保健活動においても、鳴瀬地区には保健センターがなく、隣の東松島市矢本地区（旧矢本町）にある東松島市矢本保健相談センターの保健師数名が、連絡の取れない各避難所を巡回している状況であった。

- ① 大阪医療センター（往環地区センター）
- ② 呉医療センター（牛網地区学習等供用施設）
- ③ 福山医療センター（品井沼農村環境改善センター）



(5) 活動の開始

DMAT活動を終え国立病院機構の医療班活動に合流していた国際医療研究センターDMATが宮城県医療整備課の依頼を受け、東松島市の避難所リストを得るために連絡の取れない東松島市を3月17日（木）に訪れ、支援が必要とされていることを確認した。

そのため、翌3月18日（金）に岡山医療センターの医療班を派遣し巡回診療を開始（14の避難所のうち1つの避難所を巡回し82名を診療）するとともに、東松島市の矢本保健相談センター主任保健師より継続した支援の要請を受けた。



翌3月19日(土)には、岡山医療センターの医療班に加えて、南和歌山医療センターの医療班を派遣し、網羅的に地域のほぼ全ての避難所の巡回診療等を行い状況確認した。また、東松島市の副市長、保健福祉部長、健康推進課長等と面会し、今後の継続した支援の方法について説明すると共に、地区の医師団の医師数名とも面会し、国立病院機構の支援活動について説明し理解を得た。

#### (6) 活動体制(保健センター、国際医療との連携)

鳴瀬地区の巡回診療については、自治体や国際医療研究センターとも相談した結果、急を要する患者は乏しく主に慢性疾患を持つ高齢者等の継続的な診療が求められていたため、約14の避難所をNHO医療班1班と国際医療研究センターの医療班1班の計2班が3日に1回定期的に巡回する体制をとった。

また、避難者の多くは、日中に自宅の後片付け等で避難所にはいないため、医療班が遅くても前日には診療に訪問する時間を避難所に伝え、診療を必要とする人が医療班の訪問時に避難所にいられるように配慮した。活動

の終了後は必ずその日のうちに、東松島保健センターの主任保健師に活動結果、注意を要する人、避難所の状況変化等を報告するとともに、明日の担当避難所と開始時間を確認することとした。

なお、国際医療研究センターからはコーディネーター2名が継続派遣され、NHOの医療班コーディネーターと連携して活動を実施した。

#### (7) 搬送先の確保

鳴瀬地区を含む石巻2次医療圏域は、3月20日(日)の県対策本部会議において、石巻赤十字病院が医療班活動の調整を行うとされた。このため、国際医療研究センターのコーディネーターチームは、朝7時と夕方18時に石巻赤十字病院で行われる調整会議に出席し、活動状況を報告するとともに搬送を要する個別患者等について石巻日赤病院と随時相談した。

一方、NHOの医療班は、仙台医療センターで行われる8時と18時の打ち合わせに出席し、お互いが活動前に東松島保健センターに情報を持ち寄り担当保健師とその日の活動を確認してから活動を実施する体制をとった。

- ④ 呉医療センター(大塚地区コミュニティセンター)
- ⑤ 関門医療センター(中下地区センター)
- ⑥ 愛媛病院(川下地区センター)
- ⑦ 函館病院(矢本保健相談センター)
- ⑧ 大阪医療センター(鳴瀬第一中学校)
- ⑨ 南和歌山医療センター(バンク修理の様子)
- ⑩ 高知病院(仙台医療センターでの会議)



(8) 関係団体等

- 国際医療研究センター
  - 第二陣（～3月18日）DMAT 1班
  - 第三陣（3月17日～22日）調整1班（協力部）
  - 第四陣（3月17日～26日）調整1班（活動調整）、医療1班（診療活動）
- 石巻赤十字病院
  - 石巻二次医療圏で活動する医療班の取り纏め
- 東松島市保健センター
  - 東松島市の避難所の健康衛生維持

【医療班による診療例（鳴瀬第一中：被災8日目）】

区分	人数	内訳
地震一次被害	5	外傷3、打撲2
地震二次被害	28	感冒19、不眠5、便秘3、下痢1
定期処方	35	高血圧22、痛風3、その他10
その他	14	アレルギー4、その他10
合計	82	

山元町（宮城県巨理郡）

(1) 人口：1.6万人

(2) 避難所：9箇所（3月21日現在）

施設名	避難者数
役場、中央公民館	1,300
坂元支所	300
合戦原学堂	300
真庭区公民館	200
老人憩いの家	170
山下第一小学校	570
山下中学校	650
みやま荘 他	120

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

(3) 活動経過

- 3月16日：宮城病院の支援要請を受け訪問。脳卒中患者1名を仙台医療センターに搬送
- 3月17日：ALS患者2名の航空搬送を調整するも天候不良で飛ばず。国立がん研究センターより宮城病院に診療支援（医師2名他）
- 3月18日：ALS患者2名を航空搬送（東大へ1名、医科歯科へ1名）
- 3月19日：宮城病院への看護師派遣10名開始
- 3月20日：NHO医療班1班体制による巡回診療開始
- 5月9日：NHO医療班による最期の巡回診療

①熊本再春荘病院（山元町保健センター）

②鹿児島医療センター（坂元支所）



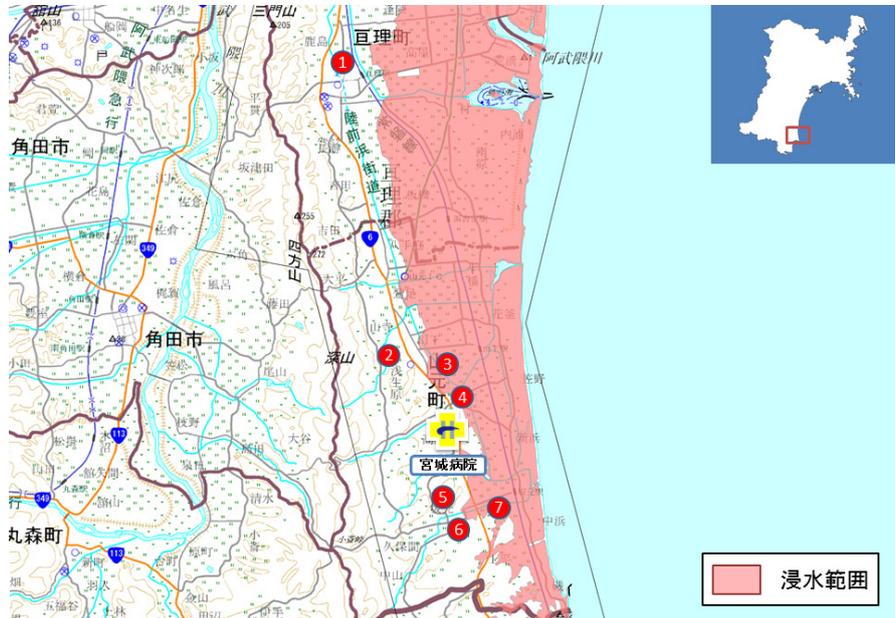
③山元町坂元駅

④宮城病院



## 【山元町での主な活動地域】

- ① 亘理高校・中学校
- ② 山元町中央公民館
- ③ 高瀬多目的センター
- ④ 合戦原学堂避難所
- ⑤ 真庭区公民館
- ⑥ 坂元支所
- ⑦ 坂元中学校



浸水範囲概況図：国土地理院

## (4) 地域の概要

仙台市の南約40kmの海沿いにある山元町は町の南北に走る国道6号線によって東側の沿岸部と西の山側に二分される。震災による津波により、国道から海側を中心に被害を受けた。特に町の南部では、国道から海側の建造物で残存するのは高台にある坂元中学校のみで、国道から数km先の海までの間の全ての建造物が流出して巨大な平原が出現し、震災以前は町並みにさざぎられて見えなかった海が国道から見晴らせる状態にあった。また、地震・津波により町の人口約1万6,000人のうち、900名近い死者・行方不明者が報告された。

## (5) NHO 宮城病院の状況

山元町にある宮城病院は国道より西の山側にあり津波の難を逃れたが、職員1名が亡くなり、職員の家族や通院中の患者にも多くの犠牲者が出た。また、地元に居住

する看護師を中心に職員の約2割にあたる70名近くが、家屋の床上浸水、全半壊、流出等により生活基盤を失った。このような状況の中、地域で唯一の病院でもあるため、被災当初から多くの溺水者、けが人が搬送されるとともに、被災した多くの住民が避難し、職員は通信が完全に途絶え家や家族の安否も分からない孤立感のまま、不眠不休で対応を余儀なくされた。

## (6) 医療班活動の開始

被災6日目の3月16日(水)に宮城病院より仙台医療センターに衛星携帯電話を通じて医師派遣等の支援要請が出された。それを受け、急遽NHO現地対策本部員と仙台医療センター医師及び国際医療研究センター医療班等が支援のため宮城病院を訪れた。状況確認をしたところ三つの課題があり解決を必要とされていた。

⑤⑥宮城病院



⑦嬉野医療センター（山元町保健センター）

⑧長崎病院・指宿病院（真庭区公民館）





宮城県亶理郡山元町：  
平成 23 年 5 月 18 日撮影  
(国土地理院)

一つ目は、山元町では、ガソリン不足や公共交通機関が不通の為、避難所等にて医療機関にかかれない患者が、病状悪化後に、夜間電話が繋がらないため連絡なしに救急搬送されてくる状況であった。その為、救急外来ではトリアージ体制による手厚い当直体制を組まざるをえず医師・看護師の疲労が蓄積していた。

二つ目として、電気が不通のまま自家発電にて人工呼吸器をつけた患者の診療を行っていたが、自家発電用の燃料は後二日分しかなく、自家発電停止等の不足の事態に備えて患者搬送を段階的に進める必要があった。

三つ目として、安否不明職員の存在や、家族と連絡が取れず不安を訴える患者へのケア負担の増加、自宅へ帰れない職員の疲労蓄積等の原因により看護スタッフ

の人手が不足していた。

院長を含め協議した結果、一つ目の課題に対して県外より医療班を避難所に派遣し、未然に避難者の病状悪化を防ぐ事、二つ目の課題に対しては、ALSの患者6名をヘリ等にて他の施設（東大病院と東京医科歯科大学に各1名ずつ、新潟病院に4名）に搬送する事、三つ目の課題に対しては、看護師を他の機構病院から派遣する事を取り決めた。また、搬送先が見つかっていなかった脳梗塞患者1名を仙台医療センターに救急搬送した。こうして、3月20日(日)から活動を始めた長崎医療センターのチームを皮切りに、山元町での医療班活動が開始された。



**(7) 自衛隊との連携**

山元町の医療班活動は、山元町の8箇所の避難所のうち北部の2箇所を自衛隊が担当し、南部の6箇所をNHO医療班が担当した。

**(8) 地域の保健活動**

山元町には保健師が5名おり、山下中学校と坂元中学校に県外からのボランティアの保健師が援助に入っている状況であった。

保健師活動の拠点としている山元町中央公民館にリーダー保健師の他2名の保健師が常駐し、1名が他の避難所を巡回する体制をとっていた。

3月21日(月)には、他の1名と県外からのボランティアの保健師1名が「薬の手帳」をもっているなど処方わかっている方の必要な薬のリストを午前中に集め、宮城病院に持参し16時に用意された薬を避難所に持ち帰る

取り組みを開始した。(宮城病院かかりつけ以外も含む)

**(9) 地域の医療機関の復興の状況**

震災前にあった4つの診療所のうち、被災10日目までには、3つの診療所が診療を再開した。また、被災により閉院していた1診療所は、再開の準備をしながら巡回診療を実施した。

ただ、ガソリン不足などによる移動困難により通院できない患者も残っており、以前と同等になるには時間を要すると考えられた。

**(10) 宮城病院へ看護師派遣**

宮城病院を支援するため、近畿ブロック管内をはじめとした全国各地の機構病院より看護師が継続的に派遣された。(後述)

- ① 鹿児島医療センター（真庭区公民館）
- ② 長崎病院・指宿病院（山元町保健センター）
- ③ 九州がんセンター（坂元中学校）
- ④ 真庭区民会館
- ⑤ 仙谷官房副長官ら視察（宮城病院）
- ⑥ 長崎川棚医療センター（山元町保健センター）
- ⑦ 鹿児島医療センター（老人憩いの家）

- ⑧ 災害医療センター（坂元中学校）
- ⑨ NHO現地対策本部（山下小学校）
- ⑩ 宮崎東病院（坂元中学校）
- ⑪ 長崎病院・指宿病院（坂元中学校での衛生指導）
- ⑫ ボランティアによる美容院（山元町保健センター）
- ⑬ 宮城病院（避難所の支援）
- ⑭ 九州がんセンター（宮城病院での会議）



## 宮城野区（宮城県仙台市）

人口19万人を抱え、仙台医療センターが所在する仙台駅東地区から港へのエリアである宮城野区では、南北に走る高速道路より海側の地域が津波の被害を受けた。

当初、仙台医療センターでは、DMAT12班のトリアージと、医師50人の3交替体制で救急体制を組んでいたがDMATの撤退に伴い医療班が救命救急を支援した。その後、患者数の減少に伴い、市内津波エリアの避難所を継続的に支援することとなった。

### (1) 活動経過

- 3月15日：仙台医療センター救命救急のトリアージ支援 県対策本部により情報
- 3月16日：仙台医療センター救命救急の中傷者診療
- 3月17日：仙台市役所、日赤仙台支部より情報収集 宮城野区より岡田小学校周辺へ支援要請 宮城野区の主要避難所を調査
- 3月18日：岡田小学校等での巡回診療を開始（東広島医療センター班39名、仙台医療センター班40名）
- 3月20日：岡田小学校等での巡回診療（仙台医療センター班31名）
- 3月21日：地区医師会からの要請に基づき、高砂中学校に仙台医療センター班による常設診療所を開設（仙台医療センター班37名）
- 4月1日：最後の診療

### (2) 避難所支援

国立病院機構の担当避難所 3箇所  
活動医療班 1班（仙台医療センター医療班）

### 【各避難所の避難者数】

避難所	避難者数
岡田小学校	750
高砂中学校	600
鶴巻小学校	250
合計	1,600

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

### (3) 備考

仙台医療センターでは、地震発生より7日目までの1週間に救急外来にて、654人を診療、うち204人が入院となった。

### 【仙台医療センターでのトリアージ患者数】

症状	3/11	3/12	3/13	3/14	合計
重症	19	7	4	8	38
中症	38	39	31	49	157
軽症	31	58	69	81	239
合計	88	104	104	138	434
入院	26	47	28	42	143

宮城野区の要請に基づき、3月17日に津波の被害が大きかった岡田小学校等の避難所に医療班を派遣し、避難所の状況調査、診療を行った。翌日より巡回診療を開始。

- ① 岡田小学校避難所  
避難者：750名、救護所：5名  
看護師巡回も高齢者が多く、常備薬が不足。  
(例：高血圧薬、インシュリン自己注射等)
- ② 高砂中学校避難所  
避難者：600名、保健師巡回
- ③ 鶴巻小学校避難所  
避難者：250名、保健師巡回  
30名程度の慢性患者が薬剤不足、火傷患者あり
- ④ 中野栄小学校避難所  
避難者277名、保健師巡回2名、開業医営業
- ⑤ 田子小学校避難所  
避難者：約200名、看護師巡回2名  
3月16日電気水道復旧、食糧豊富

津波の被害があり、携帯電話も繋がらず医療アクセスが悪い

津波の被害も無く、ある程度医療アクセスが良い

【宮城野区での活動地域】

- ① 田子小学校
- ② 中野栄小学校
- ③ 鶴巻小学校
- ④ 高砂中学校
- ⑤ 岡田小学校
- ⑥ 霞目駐屯地



浸水範囲概況図：国土地理院

- ① 大阪医療センター（仙台医療センターの支援）
- ② 横浜医療センター（仙台医療センターの支援）
- ③ 南和歌山医療センター（仙台医療センターの支援）
- ④ 仙台医療センター内でのミーティング
- ⑤ 神戸医療センター（仙台医療センターの支援）
- ⑥ 東広島医療センター（岡田小学校）
- ⑦ 仙台医療センター（高砂中学校）
- ⑧ 仙台医療センターの様子



被災後1ヶ月の現地の状況

(1) 仙台市内

現地対策本部のあった仙台市内では、震災後より徐々に電気、上下水道、ごみ収集、食料品販売、コンビニ、及び飲食店の営業、ガソリン供給、ガスと風呂の順で生活が復興されていき、被災後一ヶ月の時点で、派遣された医療班の日常生活に大きな支障は来さなくなっていた。しかし、依然市内の約半分の地域でガスの供給がとまっ

たままで、種々の商品の流通も順調にほど遠い状態であった。

(2) 東松島市

被災後一ヶ月の時点で、医療班活動の拠点である東松島市保健センターにおいても、電気・上水道は復旧されたものの、下水道は回復しておらず、トイレは駐車場内

に設置された仮設トイレを使用している状態であった。

また、石巻市及びその周辺ではガソリンの供給不足が深刻で、多くの援助者の活動にも影響を及ぼしていた。東松島市矢本地区では、開業医や私立病院など既存の医療機関が徐々に診療を再開していたが、避難者の多くはこれら医療機関へのアクセスを持っていない状況であった。更に、津波被害が甚大であった南部・海岸近傍の東松島市鳴瀬地区では、被災一ヶ月後の時点でも既存の医療機関が再開する目処は立っていなかった。

### (3) 山元町

被災後一ヶ月の時点での避難所の環境は、ほとんどの避難所で上下水道をはじめとしたライフラインは依然復旧していなかったが、大多数の小規模避難所では、生活環境としては概ね受容出来る状況に徐々に整備されつつあった。しかし、最大規模の役場・公民館避難所(約500名収容)では、依然高い人口密度とプライバシーの欠如、劣悪な衛生環境等で大幅な改善が必要とされていた。

避難者数は、被災16日後の3月26日には約3,000名であり、被災後一ヶ月後の時点でも、依然として約1,700名もの人が避難所で生活をしていた。しかし、被災約一ヶ月後の4月4日(月)に実施された町外への二次避難希望

者は約100名に留まり、多くの町民が町に留まり再建を希望しているように見受けられた。仮設住宅は既に町の山側で着工されており、5月には第一陣として70戸の入居を予定していたが、1000名を超える避難者が全員仮設住宅に入居出来るまでには、まだかなりの時間がかかると想定された。宮城病院では、看護師派遣は継続して実施されていたものの、大学派遣の一部の診療科を除きほぼ正常の外来・入院を行えるまでに回復していた。

また、山元町では宮城県から派遣の国立病院機構東尾張病院のメンタルヘルsteamが連日被災者のケアを行っていた。

## 宮城県における医療班の活動終了

### (1) 宮城野区での活動終了

宮城県内での3つの地域での医療班活動のうち、宮城野区の3箇所の避難所の巡回については、地区の医師会から仙台医療センターに対して高砂中学に常設の救護所の設置要請があったため、3月20日(日)より仙台医療センターにて対応し、3月19日(土)をもって県外からの医療班の派遣を終了した。

なお、高砂中学校での常設救護所は診療ニーズがなくなった3月31日(木)(4名を診療)に閉鎖した。

- ②福岡東医療センター(仙台医療センターの支援)
- ③高知病院(東松島市中下地区保健センター)
- ④神戸医療センター(仙台医療センターの支援)

①東広島医療センター(仙台市岡田小学校)



## (2) 鳴瀬地区の活動の終了

東松島市鳴瀬地区の医療班活動については、約12箇所の避難所を3日に一度巡回する形で毎日4箇所の避難所を、国際医療研究センターと国立病院機構の医療班計2班が各2箇所を巡回する体制であったが、4月21日(木)より長期処方への移行に伴い1週間に一回巡回する体制へと変更となり、医療班1班で十分であることから、医療コーディネーターを派遣している国際医療研究センターの医療班1班に委ねる形で、4月27日(水)(地域の2箇所の避難所を巡回して18名を診療)をもってNHO医療班の活動は終了した。

## (3) 山元地区での活動終了

4月末には、宮城県庁より医療班の継続派遣の可否を問う調査があり、山元町について医療ニーズがあれば継続派遣が可能である旨を4月25日(月)に伝達した。それを受け同日付で国立病院機構に対して、5月1日から6月30日までの災害救助法に基づく援助の依頼である「医療

救護班の派遣の継続について(依頼)」が宮城県知事より出された。

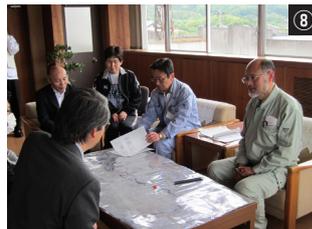
その後、診療ニーズの減少に伴い、4月28日(木)より毎朝開催していた宮城病院での自治体・医師会を交えた合同会議を中止するとともに、5月9日(月)(地域の4箇所の避難所のうち、4箇所を巡回して17名を診療)をもって、医療班による巡回診療等の活動を終了した。派遣されたのは、3月20日(日)以降、16チーム80名であり、延2187名の診療を実施し、1日平均患者数は約45人であった。

なお、活動終了翌日の5月10日(火)には、山元町の町長及び副町長が、宮城病院院長、北海道東北ブロック事務所統括部長、医療課長に面会し、国立病院機構の支援に対して謝意が述べられた。医療班活動終了を受け、宮城県のNHO現地対策本部を5月17日(火)に終了した。現地対策本部には、3月14日(月)から約2か月の間に、本部、非被災ブロックの事務職員延べ70名が派遣された。

- ⑤ 四国がんセンター (鳴瀬第一中学校)
- ⑥ 嬉野医療センター
- ⑦ 岩国医療センター (中下地区センター)



- ⑧ 山元町町長との面談
- ⑨ 岡山医療センター (鳴瀬第一中学校)
- ⑩ 福山医療センター (東松島市市民の森野外活動センター)
- ⑪ 真庭区公民館前の桜
- ⑫ 長崎医療センター・鹿児島医療センター (医療班引継ぎ)



## 【宮城県でのNHO医療班の活動】

(3月15日～3月25日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
3月15日(火)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	横浜医療センター、大阪医療センター、神戸医療センター
3月16日(水)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	横浜医療センター、大阪医療センター、神戸医療センター
3月17日(木)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	大阪医療センター、南和歌山医療センター
		岡田小学校	避難所の巡回、診療	岡山医療センター、東広島医療センター
		高砂中学校、鶴巻小学校	//	東広島医療センター
		中野栄小学校、田子小学校、仙台市コミュニティセンター	//	岡山医療センター
3月18日(金)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	大阪医療センター、南和歌山医療センター、東広島医療センター
		岡田小学校	避難所の巡回、診療(約80名)	南和歌山医療センター、東広島医療センター、仙台医療センター
		高砂中学校、鶴巻小学校	避難所の巡回、診療、医療二一卒の聴取	南和歌山医療センター、東広島医療センター
	東松島市	鳴瀬第一中学校	避難所の巡回、診療(82名)	岡山医療センター
3月19日(土)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	大阪医療センター、南和歌山医療センター
		岡田小学校、鶴巻小学校	避難所の巡回、診療(102名)	東広島医療センター、仙台医療センター
		高砂中学校	避難所の巡回、診療(2名)	東広島医療センター
	東松島市	矢本第二中学校、小野市民センター、鳴瀬第一中学校	避難所の巡回診療(13名)	岡山医療センター
		浅井地区センター、上下堤農村創作活動センター、定林寺、中下地区センター、矢本健康相談センター	避難所の巡回、診療(64名)	南和歌山医療センター
		亶理郡 亶理高校、亶理中学校	避難所の巡回、診療(28名)	長崎医療センター
3月20日(日)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療(32名)	福岡東医療センター
		岡田小学校、鶴谷小学校、高砂中学校	避難所の巡回、診療(31名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、鳴瀬第一中学校	避難所の巡回、診療(87名)	大阪医療センター
	亶理郡	山元町役場、坂元中学校、坂元支所、真庭区民会館、高瀬多目的センター、合戦原学堂、老人憩いの家、久保間生活センター	避難所の巡回、診療(93名)	長崎医療センター
3月21日(月)	仙台市	仙台医療センター	救急外来等での診療	福岡東医療センター
		高砂中学校	救護所での診療(37名)	仙台医療センター
	東松島市	鳴瀬第一中学校、定林寺、往還地区センター	避難所の巡回、診療(50名)	大阪医療センター
	亶理郡	山元町役場、真庭区民会館、坂元中学校、坂元支所、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(118名)	長崎医療センター
3月22日(火)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(41名)	仙台医療センター
		大塚地区コミュニティセンター、定林寺	避難所の巡回、診療(70名)	大阪医療センター
	東松島市	矢本健康相談センター	市保健師、国際医療研究センターに報告	//
	亶理郡	中央公民館、山元町役場、坂元支所、坂元中学校、合戦原学堂、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(135名)	福岡東医療センター、鹿児島医療センター
3月23日(水)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(31名)	仙台医療センター
	東松島市	上下堤農村創作活動センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(21名)	呉医療センター
	亶理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(93名)	鹿児島医療センター
3月24日(木)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(35名)	仙台医療センター
	東松島市	小野市民センター、ケアハウスはまなすの里	避難所の巡回、診療(44名)	呉医療センター
	亶理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家、浅生原避難所	避難所の巡回、診療(93名)	鹿児島医療センター
3月25日(金)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(28名)	仙台医療センター
	東松島市	上下堤農村創作活動センター、大塚地区コミュニティセンター	避難所の巡回、診療(57名)	呉医療センター
	亶理郡	中央公民館、山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(76名)	鹿児島医療センター

(3月26日～4月8日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
3月26日(土)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(27名)	仙台医療センター
	東松島市	中下地区センター、川下地区センター	避難所の巡回、診療(27名)	函館病院
	亶理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(63名)	九州医療センター
3月27日(日)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(9名)	仙台医療センター
	東松島市	デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(20名)	函館病院
	亶理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(78名)	熊本医療センター
3月28日(月)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(12名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、浅井地区センター	避難所の巡回、診療(51名)	函館病院
	亶理郡	山元町役場、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(76名)	熊本医療センター
3月29日(火)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(10名)	仙台医療センター
	東松島市	上下堤農村創作活動センター、中下地区センター	避難所の巡回、診療(32名)	関門医療センター
	亶理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(46名)	熊本医療センター
3月30日(水)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(5名)	仙台医療センター
	東松島市	川下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(39名)	関門医療センター
	亶理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(66名)	熊本医療センター
3月31日(木)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(4名)	仙台医療センター
	東松島市	品井沼農村環境改善センター、浅井地区センター	避難所の巡回、診療(43名)	関門医療センター
	亶理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(62名)	福岡東医療センター
4月1日(金)	仙台市	高砂中学校	救護所での診療(4名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(49名)	広島西医療センター
	亶理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(65名)	福岡東医療センター
4月2日(土)	東松島市	中下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(30名)	広島西医療センター
	亶理郡	山元町役場、中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(65名)	福岡東医療センター
4月3日(日)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、川下地区センター	避難所の巡回、診療(40名)	広島西医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館、老人憩いの家	避難所の巡回、診療(56名)	福岡東医療センター
4月4日(月)	東松島市	上下堤農村創作活動センター、大塚地区コミュニティセンター	避難所の巡回、診療(42名)	愛媛病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(49名)	別府医療センター、災害医療センター
4月5日(火)	東松島市	中下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(28名)	愛媛病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(55名)	別府医療センター、災害医療センター
4月6日(水)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、川下地区センター、町民の森野外活動センター	避難所の巡回、診療(54名)	愛媛病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(60名)	別府医療センター、災害医療センター
4月7日(木)	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(33名)	浜田医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(30名)、衛生指導	別府医療センター、災害医療センター
4月8日(金)	東松島市	中下地区センター、デイサービスセンター百合の里	避難所の巡回、診療(33名)	浜田医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(49名)	嬉野医療センター

(4月9日～4月22日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
4月9日(土)	仙台市	宮城野体育館	救護室の設置、避難所の巡回(受診者なし)	仙台医療センター
	東松島市	品井沼農村環境改善センター、川下地区センター、町民の森野外活動センター	避難所の巡回、診療(57名)	浜田医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(42名)、衛生指導	嬉野医療センター
4月10日(日)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(2名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、町民の森野外活動センター	避難所の巡回、診療(38名)	岩国医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(26名)	嬉野医療センター
4月11日(月)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(4名)	仙台医療センター
	東松島市	中下地区センター	避難所の巡回、診療(24名)	岩国医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(36名)	嬉野医療センター
4月12日(火)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(2名)	仙台医療センター
	東松島市	品井沼農村環境改善センター、町民の森野外活動センター、川下地区センター	避難所の巡回、診療(49名)	岩国医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(34名)	福岡病院
4月13日(水)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(2名)	仙台医療センター
	東松島市	大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(36名)	福山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(31名)	福岡病院
4月14日(木)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(7名)	仙台医療センター
	東松島市	中下地区センター、品井沼農村環境改善センター	避難所の巡回、診療(30名)	福山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(35名)	福岡病院
4月15日(金)	仙台市	宮城野体育館	救護所での診療(8名)	仙台医療センター
	東松島市	川下地区センター、町民の森野外活動センター	避難所の巡回、診療(26名)	福山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(30名)	福岡病院
4月16日(土)	東松島市	鳴瀬第一中学校、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(11名)	四国がんセンター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回診療(37名)、衛生指導	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月17日(日)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、中下地区センター	避難所の巡回、診療(41名)	四国がんセンター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(34名)	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月18日(月)	東松島市	川下地区センター	避難所の巡回、診療(15名)	四国がんセンター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(33名)	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月19日(火)	東松島市	鳴瀬第一中学校、川下地区センター	避難所の巡回、診療(9名)	高知病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(19名)	長崎病院、指宿病院(合同医療班)
4月20日(水)	東松島市	品井沼農村環境改善センター、中下地区センター	避難所の巡回、診療(15名)	高知病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(34名)	九州がんセンター
4月21日(木)	東松島市	川下地区センター、定林寺	避難所の巡回、診療(22名)	高知病院
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(18名)	九州がんセンター
4月22日(金)	東松島市	町民の森野外活動センター、鳴瀬第一中学校	避難所の巡回、診療(21名)	岡山医療センター
	亶理郡	中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(23名)	九州がんセンター

(4月23日～5月9日)

日付	活動場所	活動内容	医療班を編成している機構病院
4月23日(土)	東松島市 品井沼農村環境改善センター、浅井地区センター	避難所の巡回、診療(30名)	岡山医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(38名)	九州がんセンター
4月24日(日)	東松島市 ケアハウスはまなすの里	避難所の巡回、診療(6名)	岡山医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(15名)	熊本再春荘病院
4月25日(月)	東松島市 大塚地区コミュニティセンター、上下堤農村創作活動センター	避難所の巡回、診療(27名)	呉医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(21名)	熊本再春荘病院
4月26日(火)	東松島市 中下地区センター、往還地区センター	避難所の巡回、診療(23名)	呉医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(23名)	熊本再春荘病院
4月27日(水)	東松島市 牛網地区学習等供用施設、定林寺、戸別訪問調査	避難所の巡回診療(18名)、 14戸訪問	呉医療センター
	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(30名)	熊本再春荘病院
4月28日(木)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(18名)	小倉医療センター
4月29日(金)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(27名)	小倉医療センター
4月30日(土)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(11名)	小倉医療センター
5月1日(日)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(15名)	小倉医療センター
5月2日(月)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(14名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月3日(火)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(17名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月4日(水)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(23名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月5日(木)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(33名)	長崎川棚医療センター、熊本南病院(合同医療班)
5月6日(金)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(18名)	宮崎東病院
5月7日(土)	亘理郡 中央公民館、坂元中学校	避難所の巡回、診療(15名)	宮崎東病院
5月8日(日)	亘理郡 中央公民館、坂元中学校	避難所の巡回、診療(7名)	宮崎東病院
5月9日(月)	亘理郡 中央公民館、坂元支所、坂元中学校、真庭区民会館	避難所の巡回、診療(17名)	宮崎東病院

# 1-2 医療班の派遣

## (2) 岩手県における医療班の活動

被災4日目の3月14日に病院を出発した医療班第一陣3班（名古屋医療センター、金沢医療センター、東名古屋病院）が翌15日から活動を開始した。以降、主に関東信越ブロック、東海北陸ブロック管内の病院から医療班を継続的に派遣し、釜石市唐丹地区、下閉伊郡山田

町等における救護活動に従事した。

国立病院機構への直接の要請の他にも、所在する地方自治体からの要請を受けた4病院（旭川医療センター、千葉医療センター、静岡医療センター、南和歌山医療センター）から4班、20名を岩手県に派遣した。

【岩手県へのNHO医療班派遣スケジュール】

病院名	3月																					4月				
	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日					
1 名古屋医療センター①	移動			引継	帰路																					
2 金沢医療センター①	移動			引継	帰路																					
3 東名古屋病院①	移動			引継	帰路																					
4 静岡てんかん・神経医療センター			移動					引継	帰路																	
5 西新潟中央病院			移動					引継	帰路																	
6 三重中央医療センター①			移動					引継	帰路																	
7 北海道医療センター			移動					引継	帰路	移動																
8 名古屋医療センター②			移動					引継	帰路																	
9 三重病院①			移動					引継	帰路																	
10 豊橋医療センター①						移動				引継	帰路															
11 名古屋医療センター③								移動				引継	帰路													
12 医王病院								移動				引継	帰路													
13 普通寺病院								移動				引継	帰路													
14 東京医療センター①									移動				引継	帰路												
15 長良医療センター①									移動				引継	帰路												
16 名古屋医療センター④										移動				引継	帰路											
17 三重中央医療センター②											移動			引継	帰路											
18 東名古屋病院②											移動			引継	帰路											
19 東京医療センター②											移動	引継			引継	帰路										
20 富山病院											移動			引継	帰路											
21 名古屋医療センター⑤													移動			引継	帰路									
22 金沢医療センター②														移動			引継	帰路								
23 静岡医療センター①														移動			引継	帰路								
24 天竜病院															移動			引継	帰路							
25 名古屋医療センター⑥																移動			引継	帰路						
26 三重中央医療センター③																	移動			引継	帰路					
27 長寿医療センター																		移動			引継	帰路				
28 東名古屋病院③																			移動			引継	帰路			
29 名古屋医療センター⑦																				移動			引継	帰路		
30 長良医療センター②																					移動			引継	帰路	
31 豊橋医療センター②																						移動			引継	帰路

①名古屋医療センター（山田町山田南小学校）

②長良医療センター（山田町山田南小学校）

③東京医療センター（山田町山田南小学校）

④医王病院（釜石市山谷集会所）



病院名	4月																							
	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日			
28 東名古屋病院③	引継	帰路																						
29 名古屋医療センター⑦		引継	帰路																					
30 長良医療センター②			引継	帰路																				
31 豊橋医療センター②				引継	帰路																			
32 名古屋医療センター⑧	移動																							
33 静岡医療センター②		移動																						
34 三重病院②			移動																					
35 名古屋医療センター⑨				移動																				
36 三重中央医療センター④					移動																			
37 長寿医療センター						移動																		
38 金沢医療センター③									移動															
39 名古屋医療センター⑩										移動														
40 豊橋医療センター③											移動													
41 名古屋医療センター⑪												移動												
42 名古屋医療センター⑫																						帰路		

【地方自治体からの要請による医療班派遣】

病院名	活動地域	活動期間	主な活動内容
旭川医療センター	山田町	5月15日～5月21日	救護所での診療活動
千葉医療センター	陸前高田市	5月15日～5月17日	//
静岡医療センター	宮古市	4月29日～5月3日	//
南和歌山医療センター	宮古市	5月16日～5月18日	//

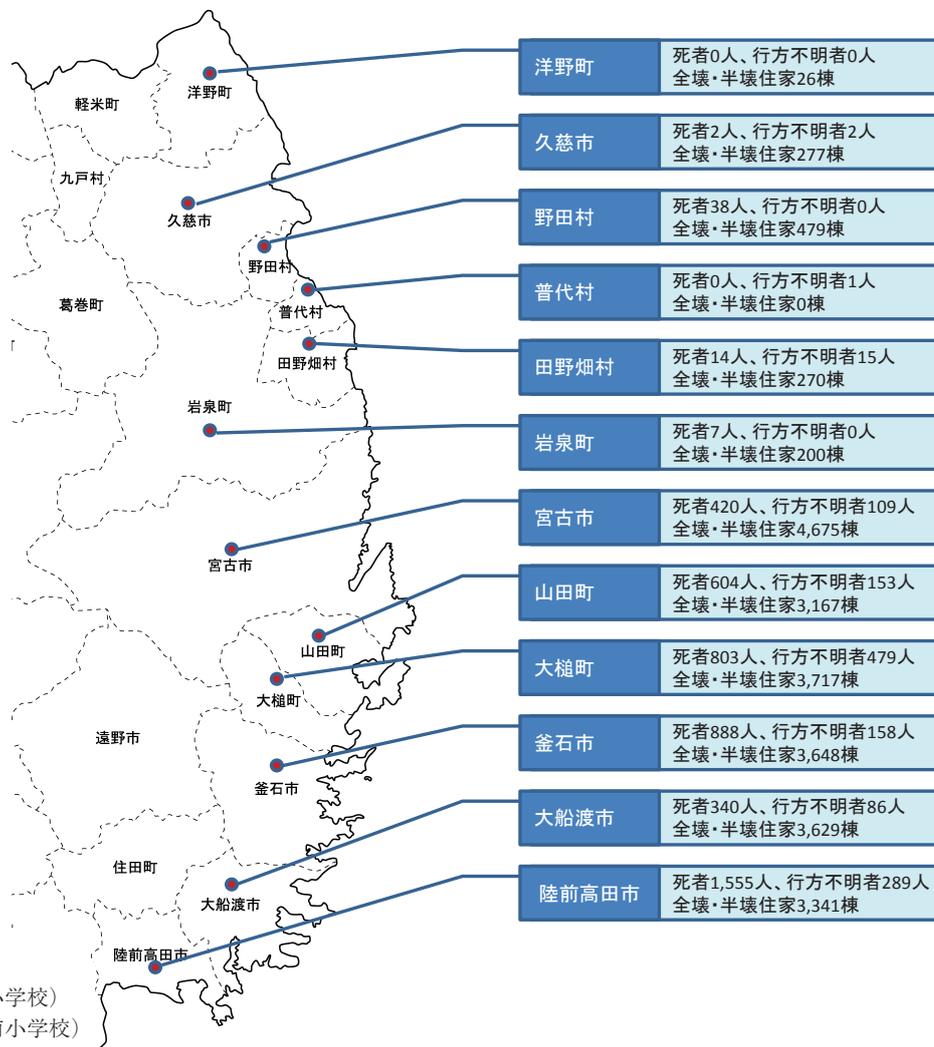


- ⑤ 名古屋医療センター（山田町山田南小学校）
- ⑥ 三重中央医療センター（釜石市市民交流センター）
- ⑦ 三重病院（釜石市白山小学校）
- ⑧ 旭川医療センター（山田町保健センター）
- ⑨ 千葉医療センター（陸前高田市東部デイサービスセンター）
- ⑩ 名古屋医療センター（山田町）
- ⑪ 金沢医療センター（山田町山田南小学校）



【岩手県の被害状況】

死者： 4,671人  
 行方不明者： 1,302人  
 家屋倒壊数： 24,747棟



- ①金沢医療センター（山田町山田南小学校）
- ②名古屋医療センター（山田町山田南小学校）
- ③山田町医療班の全体ミーティング
- ④北海道医療センター（山田町武徳殿）
- ⑤金沢医療センター（ガソリン補充）
- ⑥豊橋医療センター（山田町山田南小学校）
- ⑦千葉医療センター（東部デイサービスセンター）
- ⑧旭川医療センター（山田町保健センター）

平成24年3月2日現在（岩手県公表資料より）



## 釜石市唐丹地区等

(1) 人口：約 3.3 万人（釜石市全体）

(2) 避難所：9（唐丹地区）

施設名	避難者数
白山小学校	200
大平中学校	150
大平集会所	25
松原コミュニティ防災センター	160
釜石市民交流センター	200
漁村センター	100
本郷コミュニティセンター	40
片川集会所	43
山谷集会所	50
荒川集会所	60
天照神社	80

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

### (3) 活動医療班：NHO 医療班 1 班

岩手県に医療班が到着した被災5日目の3月15日（火）の時点では、岩手県庁でも被災地の避難所の状況や医療ニーズの詳細は把握できておらず、陸前高田市は日赤

のチームが、県立病院のある大船渡市には岩手医科大学のチームが主体となって医療支援をしている状況であった。そのため、花巻病院を活動拠点として、独自に県内を調査し医療ニーズの情報収集にあたった。

釜石市では、人口3.3万人のうち死者行方不明者は約千人、避難者は約6千人という状況であった（3月20日市対策本部発表）。3月15日（火）の時点で、既に自衛隊と日赤のチームが入っており、他の医療チームは支援の入っていない地域を求めて殺到している状況であった。

国立病院機構としては、花巻病院から釜石病院に活動拠点を移し、3月16日（水）より3月20日（日）までの5日間は、釜石市の松原・大平地区での巡回診療を実施するとともに、3月22日（火）からは、釜石市唐丹地区での巡回診療を開始した。

### (4) 活動経過

- 3月15日：保健所より地域の被災状況を調査
- 3月16日：松原・大平地区での巡回診療開始
- 3月20日：松原・大平地区での巡回診療終了
- 3月30日：唐丹地区での巡回診療終了

- ①三重中央医療センター（特別養護老人ホームあいぜんの里）
- ②三重中央医療センター（荒川集会所）
- ③④東名古屋病院



- ⑤医王病院（山谷集会所）
- ⑥医王病院
- ⑦三重病院（大平集会所）
- ⑧三重病院（白山小学校）



【釜石市での主な活動地域】

- ① 釜石市民交流センター
- ② 白山小学校
- ③ 大平中学校
- ④ 小白浜愛恵会
- ⑤ 片川集会所
- ⑥ 荒川集会所
- ⑦ 大石地域交流センター



浸水範囲概況図：国土地理院

山田町（岩手県下閉伊郡）

- (1) 人口：約 1.8 万人
- (2) 死亡・行方不明者：約 740 人
- (3) 被害家屋：約 3,340 棟（被災率 55.5%）
- (4) 避難所数：32（避難者約 4,200 人）
- (5) 活動医療班：国立病院機構1班  
日赤、昭和大、自衛隊等5班  
(3月15日時点)

避難所	避難者数
山田南小学校	854
織笠コミュニティセンター	147
織笠小学校	225
織笠保育所	19
さくら幼稚園	200
中央コミュニティセンター	50
関口児童館	30
武徳殿	120

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

釜石市での活動は医療班1班程度の医療ニーズであったため、他の活動場所を求めて、被災6日目の3月

16日(水)に山田町にて調査を実施した。

山田町では、被災直後より地域の3人の開業医が、高台にあり津波をまぬがれ避難所となっている山田南小学校にて診療を実施している状況であった。

3月16日(水)からは、日赤と昭和大のチームが診療を開始したばかりであったが、更なる医療ニーズが求められていた。

こうしたことから、3月17日(木)より山田南小学校の朝の打ち合わせに参加し、救護所の支援活動に加わることとなった。救護所での診療は山田南小学校避難者のほか、周辺の被災者もバスで来診した。また、日赤、自衛隊、昭和大学と分担し他の避難所への巡回診療をあわせて行った。

山田町の唯一の病院である県立山田病院は、津波により1階が被害を受け入院機能を失っており再開の目途が立っていなかった。このため、インフルエンザや感染性腸炎の患者は山田南小学校から約30km離れた県立宮古病院まで救急車により搬送された。宮古病院では外部からの支援を受けていたものの、周囲の県立病院が被災しているため患者が集中していた。



岩手県下閉郡山田町：  
平成23年9月16日撮影  
(国土地理院)

## (6) 活動経過

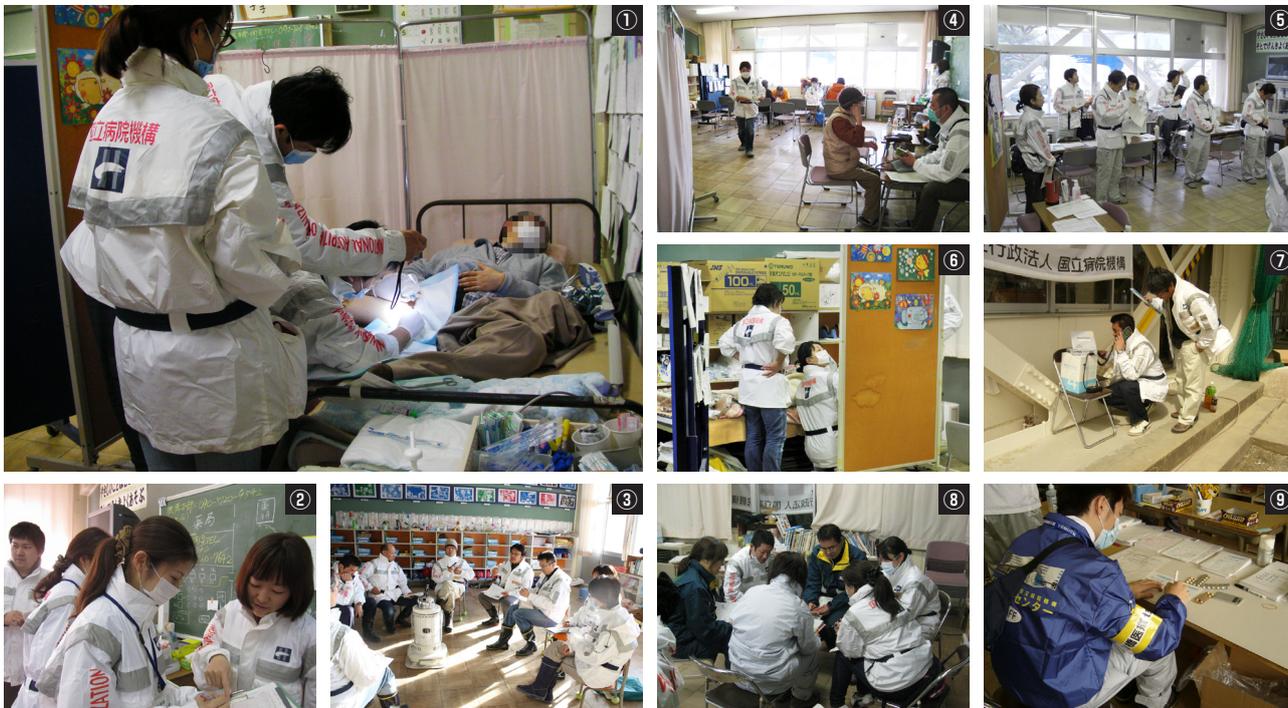
- 3月16日：山田町の被災状況を調査  
町長から今後の支援を依頼  
(日赤、昭和大にて活動開始)
- 3月17日：山田南小学校での打合せ参加  
山田南小学校での診療開始（4班体制）  
岩手県庁に活動を報告  
活動拠点を花巻病院より山田町へ移動
- 3月18日：県庁の会議に参加開始
- 3月28日：医療班を3班体制に変更
- 4月15日：山田南小学校救護所が閉鎖  
医療班を1班体制に変更
- 4月22日：山田町での支援活動を終了

## (7) いわて災害医療ネットワークの県庁会議

「いわて災害医療ネットワーク」の会議が岩手県庁内で県地域医療推進課、岩手医科大学、日赤、自衛隊、県医師会等のメンバーとして毎日行われていた。国立病院機構は山田町の担当機関となっていることから、NHO現地対策本部岩手支部のメンバーが出席し、山田南小学校での医療班全体ミーティングの状況を報告するとともに、岩手県全体の動きを情報収集した。会議に出席するに当たっては、盛岡病院から一室を借り、本部職員の拠点とした。

また、山田南小学校では、電子メールが使える環境にないことから、車で釜石病院まで移動し、釜石病院内に設置したNHO現地対策本部岩手支部に全体ミーティングの状況を報告した。

【山田南小学校での活動の様子】



- ① 東京医療センター
- ② 名古屋医療センター
- ③ 西新潟中央病院
- ④ 三重中央医療センター
- ⑤ 静岡医療センター
- ⑥ 天竜病院
- ⑦ 静岡てんかん・神経医療センター
- ⑧ 善通寺病院
- ⑨ 豊橋医療センター

【山田町での主な活動地域】

- ① 山田北小学校
- ② 善慶寺
- ③ 中央コミュニティセンター
- ④ 山田南小学校
- ⑤ 織笠コミュニティセンター
- ⑥ 織笠保育所
- ⑦ 織笠小学校



浸水範囲概況図：国土地理院



⑩名古屋医療センター  
⑪東名古屋病院  
⑫富山病院  
⑬東京医療センター

⑭静岡医療センター  
⑮長良医療センター  
⑯静岡てんかん・神経医療センター  
⑰豊橋医療センター  
⑱名古屋医療センター

## 岩手県における医療班の活動終了

### (1) 唐丹地区での活動終了

釜石市唐丹地区の診療活動は、医療ニーズが減少した為、4月2日(土)(地域の8箇所の避難所の内の3箇所を巡回し37名診療)を最後に、巡回診察を終了した。

### (2) 山田町での活動終了

山田町の活動では、4月11日(月)に地域の開業医による診療が再開するとともに、4月15日(金)に活動の拠点としていた山田南小学校の授業再開に伴い救護所が閉鎖となったため、4月22日(金)の名古屋医療センター医療班を最後に(3箇所巡回にて診療5名)、引き続き残る他の設置主体から派遣されている6班の医療班に地域での救護活動を引き継ぎ、山田町での活動を終了した。同日、現地対策本部岩手県支部も撤収した。



①山田南小学校(保健室)  
②〃(1-1)  
③〃(3-2)

【岩手県でのNHO 医療班の活動】

(3月16日～3月29日)

日付	活動場所	活動内容	医療班を編成している機構病院
3月16日(水)	釜石市 白山小学校、大平中学校、松原地区、平田地区	避難所の巡回、診療	東名古屋病院
3月17日(木)	釜石市 釜石市民交流センター、白山小学校、大平集会所、大平中学校 等	避難所の巡回、診療	東名古屋病院
	山田南小学校	救護所での診療	名古屋医療センター、金沢医療センター
3月18日(金)	下閉伊郡 山田地区避難所(織笠コミュニティセンター、織笠小学校、織笠保育園 等)	避難所の巡回、診療	金沢医療センター
	釜石市 松原地区、大平地区の避難所5カ所	避難所の巡回、診療(39名)	三重中央医療センター
3月19日(土)	釜石市 釜石市民交流センター、白山小学校、大平中学校	避難所の巡回、診療(84名)	三重中央医療センター、三重病院
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(328名)	北海道医療センター、名古屋医療センター、西新潟中央病院
3月20日(日)	釜石市 釜石市民交流センター、松原コミュニティ消防センター、大平集会所	てんかん患者の巡回、診療	静岡てんかん神経医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	避難所の巡回、診療(86名)	三重病院
3月21日(月)	山田南小学校	救護所での診療(290名)	北海道医療センター、名古屋医療センター、静岡てんかん神経医療センター、豊橋医療センター
	山田町中央コミュニティセンター、関口児童館	避難所の巡回、診療	豊橋医療センター
3月22日(火)	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(174名)	北海道医療センター、名古屋医療センター、豊橋医療センター、三重病院
	山田地区避難所2カ所(さくら幼稚園、武徳殿)	避難所の巡回、診療(2名)	豊橋医療センター
3月23日(水)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(5名)	医王病院
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(316名)	名古屋医療センター、豊橋医療センター、善通寺病院
3月24日(木)	釜石市 山田地区避難所2カ所(山田小体育館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(5名)	名古屋医療センター
	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(53名)	医王病院
3月25日(金)	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(291名)	東京医療センター、名古屋医療センター、長良医療センター、善通寺病院
	釜石市 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(10名)	善通寺病院
3月26日(土)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(85名)	医王病院
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(267名)	東京医療センター、名古屋医療センター、長良医療センター、善通寺病院
3月27日(日)	釜石市 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(10名)	善通寺病院
	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(34名)	医王病院、三重中央医療センター
3月28日(月)	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(237名)	東京医療センター、名古屋医療センター、東名古屋病院、長良医療センター
	釜石市 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(10名)	東京医療センター
3月29日(火)	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(46名)	三重中央医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(205名)	東京医療センター、名古屋医療センター、東名古屋病院、富山病院
3月29日(火)	釜石市 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(11名)	東京医療センター
	釜石市 唐丹地区避難所8カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、山谷集会所、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(67名)	三重中央医療センター
3月29日(火)	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(148名)	東京医療センター、名古屋医療センター、東名古屋病院、富山病院
	釜石市 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館)	避難所の巡回、診療(8名)	東京医療センター
3月29日(火)	釜石市 唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(15名)	金沢医療センター
	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(226名)	名古屋医療センター、富山病院、静岡医療センター
3月29日(火)	釜石市 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	東京医療センター、静岡医療センター
	釜石市 唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(33名)	金沢医療センター
3月29日(火)	下閉伊郡 山田南小学校	救護所での診療(253名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、天竜病院
	釜石市 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(12名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、天竜病院

(3月30日～4月22日)

日付	活動場所	活動内容	医療班を編成している機構病院
3月30日(水)	釜石市 唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(44名)	金沢医療センター
	山田南小学校	救護所での診療(263名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、天竜病院
3月31日(木)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
	釜石市 唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(20名)	長寿医療研究センター
4月1日(金)	山田南小学校	救護所での診療(234名)	名古屋医療センター、天竜病院、三重中央医療センター
	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
4月2日(土)	釜石市 唐丹地区避難所7カ所(小白浜愛恵会、本郷コミュニティ消防センター、天照神社、片川集会所、荒川集会所、大石地域交流センター、ケロベ漁村センター)	避難所の巡回、診療(32名)	長寿医療研究センター
	山田南小学校	救護所での診療(235名)	名古屋医療センター、三重中央医療センター、東名古屋病院
4月3日(日)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(10名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(160名)	名古屋医療センター、三重中央医療センター、東名古屋病院
4月4日(月)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(11名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(117名)	名古屋医療センター、東名古屋病院、長良医療センター
4月5日(火)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(243名)	名古屋医療センター、長良医療センター、豊橋医療センター
4月6日(水)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(211名)	名古屋医療センター、長良医療センター、豊橋医療センター
4月7日(木)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(10名)	//
	山田南小学校	避難所の巡回、診療(220名)	豊橋医療センター、名古屋医療センター、静岡医療センター
4月8日(金)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(15名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(246名)	名古屋医療センター、静岡医療センター、三重病院
4月9日(土)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(10名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(270名)	静岡医療センター、三重病院、名古屋医療センター
4月10日(日)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(166名)	三重病院、名古屋医療センター、三重中央医療センター
4月11日(月)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(9名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(117名)	名古屋医療センター、三重中央医療センター、長寿医療研究センター
4月12日(火)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(12名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(182名)	三重中央医療センター、名古屋医療センター、長寿医療研究センター
4月13日(水)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(12名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(116名)	名古屋医療センター、金沢医療センター、長寿医療研究センター
4月14日(木)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(13名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(129名)	名古屋医療センター、金沢医療センター、豊橋医療センター
4月15日(金)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(14名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(148名)	名古屋医療センター、金沢医療センター、豊橋医療センター
4月16日(土)	下閉伊郡 山田地区避難所(さくら幼稚園、中央コミュニティセンター、関口児童館、武徳殿)	避難所の巡回、診療(11名)	//
	山田南小学校	救護所での診療(127名)	名古屋医療センター、豊橋医療センター
4月17日(日)	下閉伊郡 織笠コミュニティセンター	避難所の巡回、診療(7名)	名古屋医療センター
4月18日(月)	下閉伊郡 山田南小学校、さくら幼稚園	避難所の巡回、診療(11名)	名古屋医療センター
4月19日(火)	下閉伊郡 善慶寺周辺、関口児童館、山田北小学校	避難所の巡回、診療(4名)	名古屋医療センター
4月20日(水)	下閉伊郡 織笠コミュニティセンター、さくら幼稚園、山田南小学校	避難所の巡回、診療(13名)	名古屋医療センター
4月21日(木)	下閉伊郡 関口児童館、山田南小学校	避難所の巡回、診療(1名)	名古屋医療センター
4月22日(金)	下閉伊郡 織笠保育園、織笠コミュニティセンター、織笠小学校	避難所の巡回、診療(3名)	名古屋医療センター
4月22日(金)	下閉伊郡 さくら幼稚園、山田南小学校、めくみの里「眺望」あすなろ園、山田北小学校、武徳殿	避難所の巡回、診療(5名)	名古屋医療センター

# 1-2 医療班の派遣

## (3) 福島県における医療班等の活動

福島県では、既述の山元町の南に隣接する福島県相馬郡新地町にて3月20日より医療班による巡回診療を実施した。

新地町は、地震・津波による被害を受け、被災直後は町内の5箇所の避難所に1,000名近い避難者を収容していた。

そのため、震災後の初期にはいくつかの援助者が入った模様であるが、他の地域と比較して医療ニーズが必ずしも大きくないという判断から、いずれも早期に撤退してしまった。他方、新地町の南には相馬市、さらに南には南相馬市があり、原発事故とその後の住民避難などの混

乱のなか、行政や援助者の注意がこの町には向きにくい状況にあった。また、この町は宮城病院のある山元町から車で15分程の距離にあり、多くの住民が震災以前より宮城病院を受診していたことから、国立病院機構は、宮城病院の意向を受けて、新地町の状況を評価して医療ニーズを認めたため、3月20日より避難所への巡回診療を開始した。

また、北海道庁からの依頼により、北海道医療センターでは3月27日～4月1日までの間、白河市及びその近郊市町村の避難所において巡回診療等を行った。

### 新地町（相馬郡）

- (1) 人口：8,500人
- (2) 避難所：5箇所 900人（3月21日時点）  
うち 国立 5箇所
- (3) 活動医療班：1班（3月20日～3月26日）

避難所	避難者数
新地小学校	450
尚栄中学校	200
保健センター	150
福田小学校	100
駒ヶ嶺	15

避難者数は医療班が調査したものであり、自治体等が公表している数と異なる場合がある

①大阪南医療センター（新地小学校）



### (4) これまでの活動経過

- 3月20日：宮城病院より新地地区の通院患者の情報が  
ないと連絡  
新地町にて町長より支援要請を受け活動開始
- 3月21日：大阪南医療センター班による巡回診療
- 3月22日：大阪南医療センター班による巡回診療  
特別養護老人ホームで診療  
地元の開業医である遠藤医師と意見交換
- 3月23日：福岡東医療センター班による巡回診療  
特別養護老人ホームに支援物資搬送(栄養剤等)
- 3月24日：九州医療センター班による巡回診療
- 3月25日：新地町での支援活動を終了

- ②九州医療センター（新地町保健センター）
- ③福岡東医療センター（新地小学校）
- ④北海道医療センター（国立那須甲子青少年自然の家）
- ⑤北海道医療センター（矢吹町農業短期大学校）



### (5) 宮城病院との連携

新地町は、医療圏域としては福島県相馬市を中心とする医療圏域に属するが、宮城県山元町にある宮城病院から車で15分程に位置するため、避難所には宮城病院に罹りつけの患者が多い。ガソリン供給不足より、宮城病院へ通えず、薬の継続処方を受け取れない避難者には、ID番号、名前、生年月日及び不足医薬品名等を医療班が聴取し、活動終了後に宮城病院へ伝え、翌朝の活動前に医療班が処方薬を受け取り、保健センターの保健師に渡す運用を行った。

### (6) 地域の保健活動等

町役場に保健師は3名で、リーダー1名の他の2人は毎日避難所をペアで巡回していた。医療班は活動終了後には、保健センターのリーダー保健師に状況を伝え、翌日の活動内容を確認した。

### (7) 医療機関

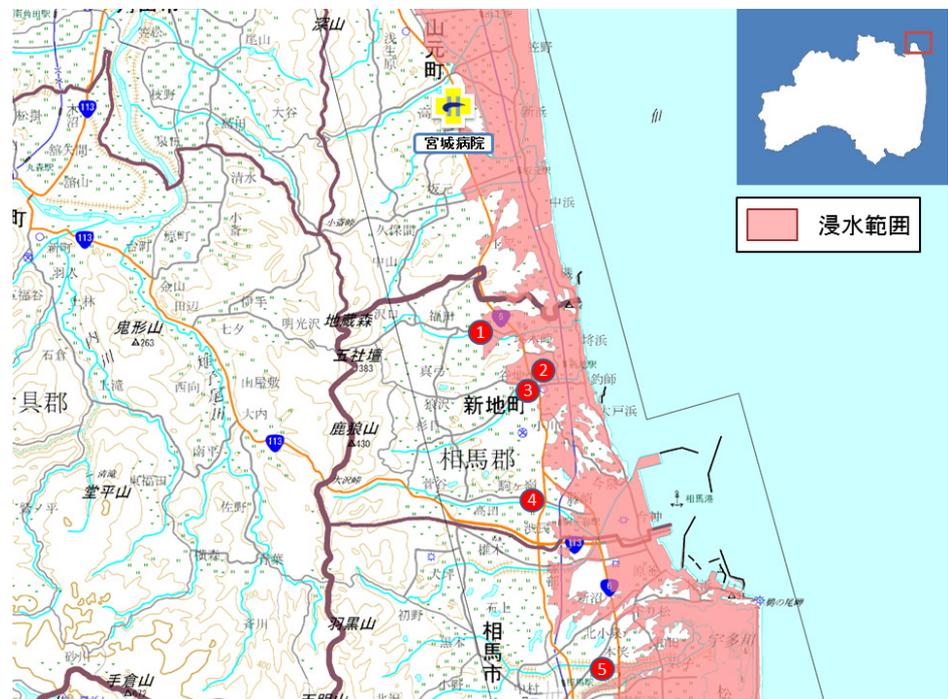
新地町には病院はなく、2箇所の開業医が震災前はあったが、1診療所は閉院し、1診療所は午前中のみ診療という状況であった。

### (8) 新地町での活動終了

福島県相馬郡新地町での活動は、診療ニーズの減少と、横須賀共済病院と三井記念病院他からの2チームの医療班が福島県庁より派遣され、交替で2泊3日滞在し、原則24時間診療を開始するとともに、町内の2つの開業医も徐々に診療を再開したことから、3月26日(土)(地域の4つの避難所全てを巡回し32名診療)をもって他から派遣された医療班に引き継ぎ、機構は医療班の派遣を終了した。

### 【新地町での主な活動地域】

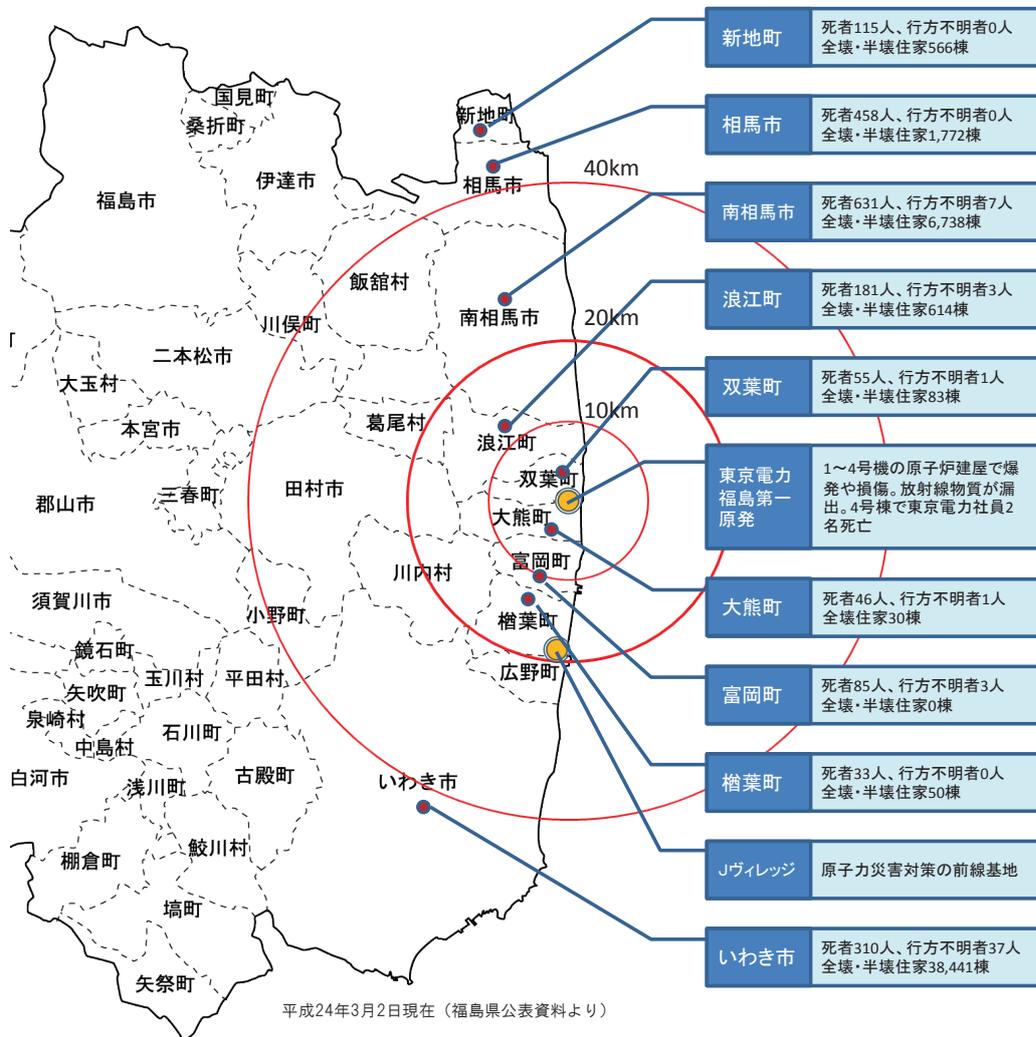
- ① 福田小学校
- ② 新地町役場 (保健センター)
- ③ 新地小学校、尚英中学校
- ④ 駒ヶ嶺避難所
- ⑤ 相馬東高校



浸水範囲概況図：国土地理院

【福島県の被害状況】

死者：1,957人  
 行方不明者：54人  
 全壊住家：20,136棟  
 半壊住家：65,093棟



- ① 横濱医療センター、下志津病院、相模原病院（いわき開成病院館）
- ② 四国がんセンター（きわき保健所）
- ③ 岩国医療センター（石川町総合体育館）
- ④ 下志津病院（小名浜第二中学校）
- ⑤ 大阪南医療センター（仙台医療センター内でのミーティング）



## 放射線スクリーニング班の活動

3月12日(土)には、東京電力福島第一原発1号機の爆発を受け、半径20km圏内の住民に対して避難指示が出され、同時に、避難者に対する放射線被ばくスクリーニングが開始された。しかし、地域の保健所の担当者のみの対応では専門家が不足していた。このため、3月13日(日)に厚生労働省より放射線科医師、放射線技師等の専門家の福島県への派遣要請が国立病院機構にあり、同日夕方から災害医療センターの放射線班を福島県庁へ派遣した。以降、計11班(47名)の医師、放射線技師等を福島県内の21か所の避難所等に派遣し、3月21日(月)まで活動した。

なお、放射線スクリーニング班の派遣にあたっては、全国の被ばく医療の拠点病院の

医師を招聘するとともに、関東信越ブロック管内病院の放射線技師を中心に病院横断的なチームを編成しミッションを実行した。

### 【福島県の被害状況】

病院名	3月										
	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	
1 災害医療センター① 千葉東病院	移動			帰路							
2 金沢医療センター		移動		帰路							
3 大阪医療センター 埼玉病院 西埼玉中央病院		移動			帰路						
4 岡山医療センター 東京医療センター 東京病院		移動			帰路						
5 横浜医療センター 下志津病院 相模原病院		移動			帰路						
6 岩国医療センター		移動			帰路						
7 四国がんセンター		移動			帰路						
8 長崎医療センター			移動			帰路					
9 災害医療センター②				移動					帰路		
10 福山医療センター					移動				帰路		
11 九州医療センター 熊本医療センター						移動				帰路	

- ①災害医療センター（伊達郡川俣町）
- ②長崎医療センター（相馬東高校）
- ③福山医療センター（郡山北工業高校）
- ④九州医療センター・熊本医療センター（杜川小学校）
- ⑤東京医療センター・東京病院・岡山医療センター（郡山総合体育館）
- ⑥金沢医療センター
- ⑦横浜医療センター・下志津病院・相模原病院（郡山総合体育館）



【福島県でのNHO医療班の活動】

(3月14日～3月26日)

日付	活動場所		活動内容	医療班を編成している機構病院
3月14日(月)	郡山市	郡山総合体育館	被ばくスクリーニング	災害医療センター、千葉東病院
3月15日(火)	郡山市	郡山総合体育館	被ばくスクリーニング	災害医療センター、千葉東病院
	いわき市	いわき市保健所	//	東京医療センター、東京病院、岡山医療センター
	福島市	あづま総合運動公園	//	横浜医療センター、下志津病院、相模原病院、四国がんセンター
	田村郡	小野町公民館	//	岩国医療センター
3月16日(水)	郡山市	ビッグパレットふくしま	被ばくスクリーニング	東京医療センター、東京病院、岡山医療センター
	いわき市	広野小中学校	//	埼玉病院、西埼玉中央病院、大阪医療センター
		浜名第二中学校	//	横浜医療センター、下志津病院、相模原病院
		いわき市保健所	//	四国がんセンター
	石川郡	石川町総合体育館、古殿町公民館	//	岩国医療センター
相馬市	相馬東高校	//	長崎医療センター	
3月17日(木)	郡山市	郡山総合体育館	被ばくスクリーニング	埼玉病院、西埼玉中央病院、大阪医療センター、横浜医療センター、下志津病院、相模原病院
	いわき市	勿来高校	//	岩国医療センター
		いわき市保健所	//	四国がんセンター
	福島市	飯坂支所	//	長崎医療センター、東京医療センター、東京病院、岡山医療センター
伊達郡	川俣高校	//	災害医療センター	
3月18日(金)	いわき市	いわき市保健所	被ばくスクリーニング(約800名)	長崎医療センター
	相馬市	相馬高校	避難所を巡回、診療(約100名)	災害医療センター
	飯館村	飯館村公民館	被ばくスクリーニング(約60名)	福山医療センター
3月19日(土)	福島市	福島東高校で診療、福島大学	被ばくスクリーニング及び診療	九州医療センター、熊本医療センター
		福島西高校	被ばくスクリーニング(約120名)	福山医療センター
	飯館村	飯館村公民館	避難所を巡回、診療	福山医療センター
	伊達郡	川俣高校	被ばくスクリーニング(約150名)	災害医療センター
3月20日(日)	郡山市	郡山北工業高校	被ばくスクリーニング	福山医療センター
	いわき市	いわき中央IC	//	九州医療センター、熊本医療センター
	南相馬市	鹿島中学校、サテライトかしま	//	災害医療センター
	東白川郡	社川小学校	//	九州医療センター、熊本医療センター
	相馬郡	新地保健センター、尚英中学校	避難所を巡回、診療(29名)	大阪南医療センター
3月21日(月)	南相馬市	サテライトかしま	被ばくスクリーニング	災害医療センター
	伊達郡	国見町ふれあいセンター	//	九州医療センター、熊本医療センター
	相馬郡	新地町役場、新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校	避難所を巡回、診療(32名)	大阪南医療センター
3月22日(火)	相馬郡	新地町役場、新地保健センター、尚英中学校、特養老人ホーム、遠藤内科医院、菅野医院	避難所を巡回、診療(計22名)	大阪南医療センター
3月23日(水)	相馬郡	新地町役場、新地小学校、福田小学校、駒ヶ嶺避難所、特養老人ホーム	避難所を巡回、診療(38名)	福岡東医療センター
3月24日(木)	相馬郡	新地町役場、新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校	避難所を巡回、診療(46名)	九州医療センター
3月25日(金)	相馬郡	新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校、駒ヶ嶺避難所	避難所を巡回、診療(55名)	九州医療センター
3月26日(土)	相馬郡	新地保健センター、尚英中学校、新地小学校、福田小学校	避難所を巡回、診療(32名)	九州医療センター

## 警戒区域一時帰宅への支援

5月10日以降、東京電力福島第一原子力発電所から半径20km圏内の「警戒区域」内に自宅がある住民の一時帰宅が始まった。国からの要請により、一時帰宅する際の中継基地で体調確認や一時帰宅後の体調不良者への対応等をするために、5月31日から主に関東信越ブ

ロック管内の28病院19班を継続的に派遣した。(以後も予定している)

熱中症、車酔い、頭痛などの対応を行ったが、被ばく量測定においては、直ちに身体に影響を及ぼす程の重大な被ばくはなかった。

### 【医療班派遣病院】

派遣日	派遣病院	活動場所
5月31日～6月2日 6月6～9日	災害医療センター	川内村村民体育センター
6月14、15日	水戸医療センター	〃
6月18、19日	甲府病院	〃
6月24、25日	水戸医療センター	広野町中央体育館
6月28、29日	まつもと医療センター	川内村村民体育センター
7月1、2日	神奈川病院	広野町中央体育館、 田村市古道体育館
7月6、7日	宇都宮病院	川内村村民体育センター
7月9、10日	東京病院	田村市古道体育館
7月14、15日	茨城東病院	川内村村民体育センター
7月16、17日	横浜医療センター	田村市古道体育館
7月26日	相模原病院	〃
8月1日	東埼玉病院	川内村村民体育センター
8月2～4日	東京医療センター	田村市古道体育館
8月6～8日	高崎総合医療センター	川内村村民体育センター
8月9、10日	千葉医療センター	田村市古道体育館
8月11、12日	栃木病院	川内村村民体育センター
8月20日	西新潟中央病院	〃
9月6日	西埼玉中央病院	広野町中央体育館
9月20日	西群馬病院	田村市古道体育館
9月23～25日	沼田病院	広野町中央体育館

派遣日	派遣病院	活動場所
10月1日	千葉東病院	広野町中央体育館
10月12日	下総精神医療センター	〃
10月15日	東京医療センター	〃
10月19、20日	神奈川病院	〃
10月26日	東京病院	〃
10月29日	下志津病院	〃
11月2、3日	箱根病院	〃
11月16、17日	宇都宮病院	〃
11月22、23日	埼玉病院	〃
11月30日、12月1日	村山医療センター	〃
12月3日	信州上田医療センター	〃
12月11日	高崎総合医療センター	〃
12月18日	相模原病院	〃
2月11、12日	災害医療センター	常磐自動車道広野IC
2月16日	横浜医療センター	〃
2月19日	災害医療センター	〃
2月25日	甲府病院	〃
3月1日	西新潟中央病院	Jヴィレッジ管理棟
3月4日	村山医療センター	〃
3月7日	霞ヶ浦医療センター	〃
3月10日	いわき病院	〃
3月14日	西埼玉中央病院	〃

水戸医療センター



西埼玉中央病院



東京医療センター



宇都宮病院



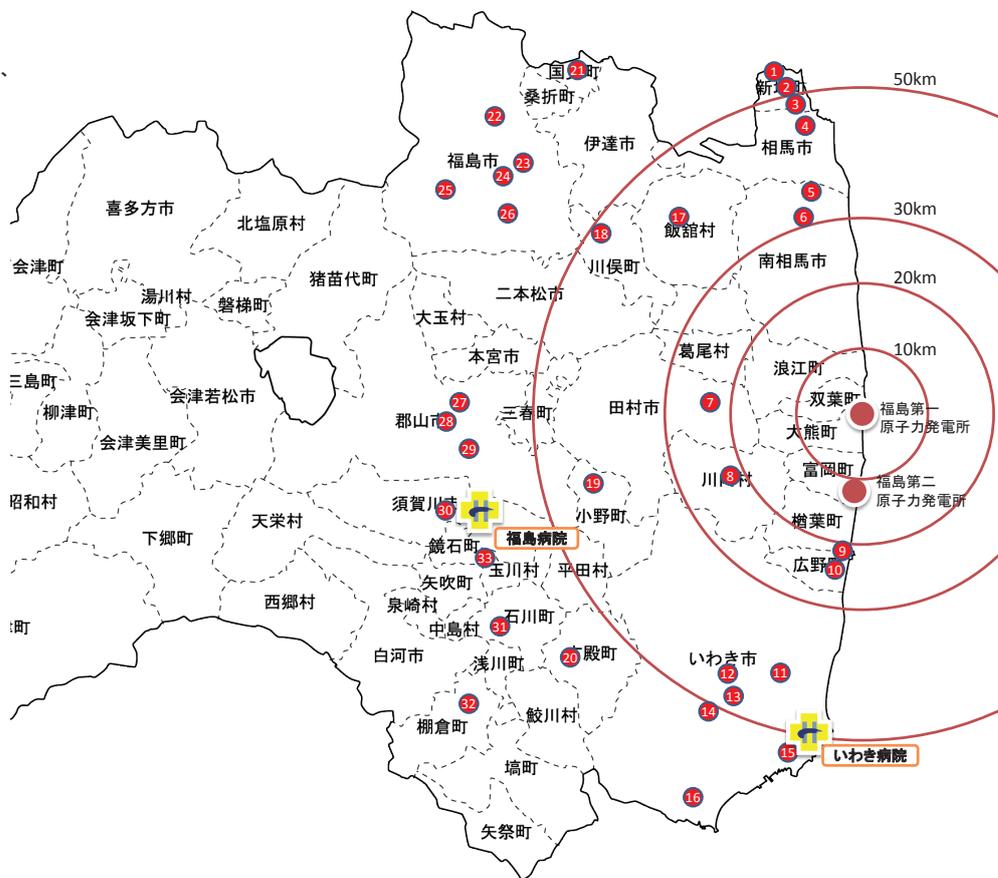
## 原子力災害対策本部への派遣

福島県庁内に設置された原子力災害現地対策本部に災害医療アドバイザーとして、災害医療センターから医師2名を派遣した。また、原子力災害対策の前線基地となっ

たJヴィレッジに大阪医療センターから医師2名、診療放射線技師1名を派遣し、Jヴィレッジ医療チームの統括等を行った。

### 【福島県での主な活動地域】

- 1: 福田小学校
- 2: 新地町役場（保健センター）、新地小学校、尚英中学校
- 3: 駒ヶ嶺避難所
- 4: 相馬東高校
- 5: サテライトかしま
- 6: 鹿島中学校
- 7: 田村市古道会館
- 8: 川内村民体育センター
- 9: Jヴィレッジ
- 10: 広野体育館
- 11: 草野中学校
- 12: いわき中央IC
- 13: いわき保健所
- 14: 磐城共立病院
- 15: 小名浜第二中学校
- 16: 勿来高校
- 17: 飯館村公民館
- 18: 川俣高校
- 19: 小野町公民館
- 20: 古殿町公民館
- 21: 国見町ふれあいセンター
- 22: 飯坂支所
- 23: 福島東高校
- 24: 福島西高校
- 25: あづま総合運動公園
- 26: 郡山北工業高校
- 26: 福島大学
- 27: 郡山総合体育館
- 28: ピックパレットふくしま
- 30: 福島県県中保健福祉事務所
- 31: 石川町総合体育館
- 32: 社川小学校
- 33: 福島空港



- ① 長崎医療センター（放射線スクリーニング）
- ② 岩国医療センター（福島県災害対策本部）



- ③ 千葉東病院（放射線スクリーニング）
- ④ 大阪医療センター（Jヴィレッジ）



# NHO BLOUSON

本震災では多数の職員が支援活動に従事したためNHOブルゾンが不足するとともに、職種や病院名が識別できた方が活動しやすいとの声が寄せられた。このため、マジックテープで職種、病院名のワッペンを貼付けできる

ブルゾンを作成するとともに、夏場の活動における暑さ対策としてメッシュタイプのベスト(ビブス)を新たに導入した。なお、両タイプとも背中中の「国立病院機構」の文字が蓄光素材で光るようになっている。



# 1-3 心のケアチームの派遣

震災に伴うPTSDや長期に渡る避難所生活等の精神的疲労に対するケアを行うため、10病院から106班の精神科医等の心のケアチームを被災県の要請により派遣した。

活動当初、被災者は胸の内を打ち明けなかったが、血圧や風邪、不眠といった身体的な問題を糸口に声を掛けていくことで、地震・津波の恐怖や将来への不安などの思いを引き出すことができた。また、子どものケアに対してはいっしょに遊びながら関わりを深めていった。

地元の保健師や行政職員など被災支援者に対する心のケアも重要であった。自身も家族や家を失った被災者

であるにもかかわらず、震災直後から強い使命感で支援活動を続けており、心身ともに疲労困ぱいしている状況であった。被災者への対応の一方で、被災支援者の面接を行い、心の健康チェックを行った。

避難所から仮設住宅への入居が進むにつれて、アルコール問題が顕在化した。久里浜アルコール症センターでは、飲酒の頻度や量を点数化して依存度を調べるテストを実施するとともに、健康教室を開催し、避難者や保健師、医療関係者らにアルコール依存への関心と知識を高めてもらう啓蒙活動を行った。



①久里浜アルコール症センター（大船渡市）

②③々（仮設住宅への訪問）

④々（保健師、地域の医療関係者へのアルコール講習）

⑤花巻病院（宮古市）

⑥肥前精神医療センター（宮城県塩竈保健所管内）

⑦肥前精神医療センター（保育園での心理教室）

⑧下総精神医療センター（福島県県中保健福祉事務所）

⑨鳥取医療センター（岩手県山田小学校）

⑩琉球病院（岩手県宮古市）

【心のケアチームの派遣スケジュール】

病院名	3月		4月		5月		6月		7月		
	15日	31日	1日	15日	30日	1日	15日	31日	1日	15日	31日
下総精神医療センター											
久里浜アルコール症センター											
小諸高原病院											
東尾張病院											
やまと精神医療センター (旧松籬荘病院)											
鳥取医療センター											
肥前精神医療センター											
琉球病院・菊池病院 (合同チーム)											
花巻病院											

病院名	8月			9月			10月			11月			12月		
	1日	15日	31日	1日	15日	30日	1日	15日	31日	1日	15日	30日	1日	15日	31日
下総精神医療センター															
久里浜アルコール症センター															
小諸高原病院															
東尾張病院															
やまと精神医療センター (旧松籬荘病院)															
鳥取医療センター															
肥前精神医療センター															
琉球病院															
菊池病院															
花巻病院															

⑪⑫やまと精神医療センター（岩手県陸前高田市）

⑬⑭菊池病院（岩手県宮古市）

⑮⑯小諸高原病院（宮城県松島町）

⑰⑱東尾張病院（宮城県）



# 1-4 医師・看護師等の派遣

## 福島県立医科大学巡回診療チームへの看護師派遣

福島県災害対策本部長からの依頼に基づき厚生労働省から看護師派遣要請があり、4月12日(火)から4月28日(木)まで5名ずつの看護師を継続して福島県立医科大学附属病院の巡回診療チームに派遣した。診療チームは福島市、相馬市、いわき市、会津地方などの避難所を巡回し、健康状態、生活環境の調査や下肢静脈血栓症(エコノミー症候群)の検査・予防医療、心のケアを実施した。

### 【医療班派遣病院】

	派遣期間	派遣病院
第1班	4/12~4/15	いわき病院
第2班	4/18~4/22	東佐賀病院、大分医療センター、別府医療センター、都城病院
第3班	4/25~4/28	西埼玉中央病院、千葉東病院、村山医療センター、横浜医療センター、相模原病院



- ① 都城病院 (新地町)
- ②③ 第2班 (九州ブロック管内病院)
- ④ 村山医療センター (相馬市)
- ⑤ 千葉東病院 (相馬市)
- ⑥ 相模原病院 (福島市)
- ⑦ 第3班 (関東信越ブロック管内病院)



## 集団避難所への看護師派遣

地震や東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、福島県双葉町等の住民約2,000人が埼玉県にある「さいたまスーパーアリーナ」に一時的に集団避難された。地元医師会が中心となり救護ステーションが3月18日夕から設置され、西埼玉中央病院では看護師7名を派遣し、避難生活の疲れで風邪やインフルエンザに罹ったり、高血圧、糖尿病などの持病の薬を切らした住民への対応等を行った。



さいたまスーパーアリーナ

## その他職員の派遣

自治体、大学、看護協会等の機関からの依頼に基づき13病院から医師、看護師等25名を派遣した。

派遣病院	依頼元	派遣者（人数）	活動地域	活動概要
北海道医療センター	北海道庁	医師（1） 看護師（1）	宮城県気仙沼市	北海道庁心のケアチームとして派遣
岩手病院	国境なき医師団	医師（1）	宮城県三陸町	救護所での診療
沼田病院	日本医療社会福祉協会 群馬県理学療法士会	MSW（1） 理学療法士（1）	宮城県石巻市 群馬県片品村	避難者の退所支援 避難者の理学療法支援
埼玉病院	NPO 法人 AMDA	医師（1）	宮城県南三陸町	AMDA医療チームとして派遣
災害医療センター	日本医科大学附属病院	医師（1）	宮城県気仙沼市	日本医科大学心のケアチーム
横浜医療センター	横浜市	事務職（1）	宮城県気仙沼市	横浜市医療班として派遣
箱根病院	日本プライマリ・ケア連 合学会	医師（1）	宮城県気仙沼市	救護所での診療
新潟病院	新潟県	臨床検査技師（6）	新潟県長岡市	避難者のエコノミー症候群検査
さいがた病院	新潟県 日本精神福祉士協会	臨床検査技師（2） 精神保健福祉士（1）	新潟県柏崎市 宮城県石巻市	避難者のエコノミー症候群検査 東北大学心のケアチームとして派遣
	新潟県	看護師（1） 心理療法士（1）	福島県相馬市	新潟県心のケアチームとして派遣
金沢医療センター	日本医療社会福祉協会	MSW（1）	宮城県石巻市	避難者の退所支援
賀茂精神医療センター	広島県	心理療法士（2）	福島県郡山市	広島県医療班
九州医療センター	福岡県看護協会	看護師（1）	宮城県内避難所	災害支援ナース
宮崎東病院	宮崎県	医師（1）	岩手県	宮崎県心のケアチームとして派遣

①北海道医療センター（北海道心のケアチーム）

②加茂精神医療センター（広島県医療班）

③④新潟病院（エコノミー症候群の検査）



## 2. 機構内でのネットワークを活かした対応

### 患者搬送

#### (1) いわき病院の患者搬送

いわき病院では、地震直後の津波の被害により外来施設が床上浸水し、床や冷暖房機器などの破損、医療ガス供給装置の冠水があった。更に、停電時に使用していた自家発電機が故障したために被災4日目の3月14日に全入院患者の搬送を決定した。

15日より順次、入院患者130名（うち重症心身障がい者80名）を、国立病院機構の8病院（米沢病院、水戸医療センター、霞ヶ浦医療センター、茨城東病院、西群馬病院、東埼玉病院、千葉東病院、下志津病院）及び他の民間病院へ搬送した。なお、10名は退院または外泊とした。



#### 【入院患者の転院先病院】

患者受入病院	患者	人数
水戸医療センター	神経難病等患者	39名
米沢病院	重症心身障がい者	11名
霞ヶ浦医療センター	重症心身障がい者 神経難病患者	42名 5名
茨城東病院	重症心身障がい者	4名
下志津病院	重症心身障がい者	5名
千葉東病院	重症心身障がい者	4名
西群馬病院	重症心身障がい者	5名
東埼玉病院	重症心身障がい者	5名
さいがた病院	神経難病患者	2名
北里大学病院	神経難病患者	5名
かしま病院	人工呼吸器装着患者	2名
市立総合磐城共立病院	人工呼吸器装着患者	1名
合計		130名

#### 【重心患者の搬送手段】

搬送先	人数	搬送手段
霞ヶ浦医療センター	42名	自衛隊大型ヘリ2機
米沢病院	11名	山形病院のバス
下志津病院	5名	ブロック借り上げのリフト付きバス
千葉東病院	4名	ブロック借り上げのリフト付きバス
西群馬病院	5名	西群馬病院のマイクロバス
東埼玉病院	5名	西群馬病院のマイクロバス





福島県いわき市：平成 23 年 7 月 11 日撮影（国土地理院）

### ①患者搬送経緯

3月11日（被災当日）

震災直後の津波被害により外来施設が床上浸水

3月14日（被災4日目）

停電対応として使用していた自家発電機が故障し、修理するものの油漏れを起こしかろうじて運転している状況となった。さらに断水に加え、重油と食料も2・3日分で、補給の目途がたたず、病院機能の維持が困難と判断し、全患者の移送を決定し、患者の搬送先と搬送手段の確保を病院にて検討開始した。

3月15日（被災5日目）

一般患者60名のうち、39名はいわき市消防本部のバスにより、水戸医療センターに搬送するとともに、いわき病院の職員7名（内科医長1名、理学療法士2名、副総看護師長1名、看護師1名、業務技術員1名）は、水戸医療センターにて継続的な勤務とした。

残る一般患者21名のうち、人工呼吸器を装着したALS患者13名はいわき市内の病院へ救急車で搬送すると共に、8名は退院または外泊とした。

一方、重症心身障がい者80名のうち、人工呼吸器を装着した2名はいわき市内の病院へ救急搬送するとともに、2名は家族の意向により在宅へ、4名は茨城東病院で受け入れた。

3月16日（被災6日目）

重症心身障がい患者の残り72名は、本部と関東信越ブロック事務所にて搬送先を検討し、霞ヶ浦医療センターへ42名、米沢病院へ11名、下志津病院へ5名、千葉東病院へ4名、西群馬病院へ5名、東埼玉病院へ5名搬送した。

なお、霞ヶ浦医療センターへの職員32名の派遣を始めとして、患者搬送先の各病院に職員も派遣し、交替で勤務にあたった。

## ②搬送患者の帰院について

いわき病院では、病棟・外来の建物の主要な損傷の修復が完了し、電気水道等のライフラインも復旧したため、いわき市からの病院再開要請等も踏まえ、搬送患者の帰院を決定した。搬送にあたっては、5月17日より患者・家族の意向確認を文書で行った後、患者の安全確保の上で軽傷患者はマイクロバス等にて人工呼吸器装着等の重症患者は救急車による搬送を順次5月30日より実施した。

なお、帰院後の病棟の使用については、退院患者等もいることで患者数が減少していたことから震災前4病棟使用に対して、3病棟による運営となった。



①②③いわき病院から患者搬送  
④⑤⑥霞ヶ浦医療センターでの患者受入れ  
⑦⑧水戸医療センターからいわき病院へ再搬送  
⑨⑩宮城病院から患者搬送

## (2) 宮城病院、茨城東病院、宇都宮病院の患者搬送

被災した宮城病院から人工呼吸器装着のALS患者4名を新潟病院に搬送した。4名は3月19日の午前、午後の2回に分け2名ずつ陸上自衛隊高田駐屯地にヘリコプターで運ばれた。高田駐屯地からは、新潟病院の医師、看護師、臨床工学技士と救急隊が宮城病院のスタッフから引き継ぎを受け新潟病院に搬送した。なお、3名の患者は6月6日、21日、28日に宮城病院へ1名ずつ再搬送され、残る1名は7月5日に民間病院へ転院した。

また、茨城東病院から重症心身障がい患者4名を霞ヶ浦医療センターに、宇都宮病院から重症心身障がい患者3名を栃木病院に搬送した。



## 医師・看護師等の派遣

### (1) 仙台医療センター、宮城病院への派遣

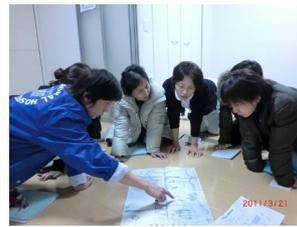
仙台医療センターでは、仙台市内の公共交通機関が全てストップするとともに、ガソリン等の燃料不足から、多くの職員が通勤できない状況であった。そのような中、病院に泊まり込みで、少ない水と食料を糧に地域の中核病院として被災した患者を受け入れるとともに、避難所となった近隣中学校等での救護活動に従事した。

宮城病院では、職員の2割以上が自宅等の被災により生活基盤を失うとともに、通信の途絶え孤立した中、懸命に地域医療を維持した。

このようなことから、両病院の看護体制の維持のため、多数の看護師を、他の機構病院から応援に派遣した。4月13日以降は、北海道東北ブロックが管内病院からの看護師派遣を調整し、6月30日まで継続的に支援した。

【仙台医療センターへの看護師派遣スケジュール】

派遣病院	3月19日	20日	21日	22日	23日	24日
宇多野病院	看護師2名→					
大阪医療センター	看護師1名→					
近畿中央胸部疾患センター	看護師1名→			看護師1名→		
大阪南医療センター	看護師1名→			看護師1名→		
神戸医療センター	看護師1名→			看護師1名→		
姫路医療センター	看護師1名→			看護師1名→		
京都医療センター				看護師2名→		



近畿ブロック管内病院（宮城病院への看護師支援）

【宮城病院への看護師派遣スケジュール】

派遣病院	3月		4月		5月		6月		7月		
	15日	31日	1日	15日	30日	1日	15日	30日	1日	15日	31日
福井病院	1名→										
あわら病院	1名→	1名→									
東京都病院	1名→										
刀根山病院	2名→	1名→									
兵庫中央病院	1名→	1名→									
奈良医療センター	2名→	2名→									
やまと精神医療センター (旧松原病院)	2名→	2名→									
和歌山病院		2名→									
福岡病院			2名→								
宮崎病院			4名→								
南九州病院			2名→								
柳井病院			1名→	1名→							
浜田医療センター			2名→								
松江医療センター			2名→								
東徳島医療センター			2名→								
徳島病院			2名→								
米子医療センター			2名→								
山口宇部医療センター			2名→								
南岡山医療センター			2名→								
高松医療センター			2名→								
いわき病院				3名→ 3名→	1名→ 4名→	2名→	1名→ 1名→ 3名→ 1名→	1名→			
北海道がんセンター							1名→				
北海道医療センター							1名→				
函館病院							1名→				
弘前病院							1名→	1名→	1名→		
青森病院									1名→		
旭川医療センター								3名→		3名→	
帯広病院								1名→	1名→		
あきた病院									1名→	1名→	
仙台医療センター										2名→	



①～③ 近畿ブロック管内病院  
 ④ 中国四国ブロック管内病院  
 (宮城病院への看護師派遣)  
 ⑤～⑦ 仙台医療センターの様子

(2) 宇都宮病院への看護師等の派遣

宇都宮病院では、ライフラインが停止すると共に、病棟が水道管の破損による浸水や天井の落下により使用することができなくなったため、近隣の養護学校や被害が無かった病棟に患者を移動するなどの対応に当たった。こ

れらの状況により職員の疲弊が著しいことから関東信越ブロック管内病院から看護師、薬剤師、事務員等を3月15日から3月26日まで派遣し、診療機能の維持を図った。なお、レスピレーター装着患者3名を栃木病院に移送した。

【派遣スケジュール】

派遣病院	3月15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
栃木病院	看護師6名→ 事務職2名→ 薬剤師2名→											
東京医療センター				看護師2名→ 事務職1名→								
千葉東病院							看護師3名→ 事務職1名→					
新潟病院			看護師4名→									
さいがた病院										看護師4名→		

釜石病院土肥院長が災害時看護心得帳「Nursing Note」を出版しました



大震災を身近で経験しまして、スタッフを含め様々な経験をいたしました。これらの経験や教訓を、他の地域の方や後世にも伝えて、役立てたいと思い、5月頃から7月頃まで不眠不休で「避難所ナースノート」をまとめ、出版いたしました。

この本のコンセプトは、ナース自身が被災をして、避難所に避難した時にどんな心構えで、どう行動すれば良いか、と言う点で編集しております。出来上がりましてからの評判は良く、特に看護スタッフからは絶大な支持を得ております。ぜひ、皆様にも活用して頂ければ幸いです。

なお、この本で得ました印税は、全て被災地の復興のために使う予定でありますので、ご高配の程よろしくお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構釜石病院 院長 土肥 守

(3) 水戸医療センターへの医師・看護師等派遣

水戸医療センターが、民間病院から入院患者50名、

いわき病院から39名を受け入れるにあたり、医師、看護師、診療放射線技師を3月15日から3月25日の間派遣した。

【派遣スケジュール】

派遣病院	3月15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日
高崎総合医療センター	医師1名→ 看護師3名→			診療放射線技師2名→							
埼玉病院	医師2名→ 看護師4名→ 診療放射線技師1名→			診療放射線技師1名→							
東埼玉病院	医師1名→ 看護師2名→										
下総精神医療センター	看護師3名→										
千葉医療センター	看護師4名→										
村山医療センター	看護師4名→										
東京病院	看護師2名→										
東京医療センター				医師4名→							
まつもと医療センター松本病院					診療放射線技師1名→			診療放射線技師1名→			
富山病院				看護師1名→							
北陸病院				看護師1名→				看護師1名→			
金沢医療センター				看護師1名→				看護師1名→			
医王病院				看護師1名→				看護師1名→			
七尾病院								看護師2名→			
石川病院				看護師1名→							
長良医療センター				看護師1名→				看護師1名→			
静岡てんかん・神経医療センター								看護師1名→			
静岡医療センター				看護師1名→				看護師1名→			
名古屋医療センター				看護師5名→				看護師3名→			
東名古屋病院								看護師1名→			
東尾張病院				看護師3名→				看護師3名→			
三重中央医療センター				看護師2名→				看護師2名→			



① 東京医療センター（水戸医療センターへの医師派遣）  
② 東埼玉病院（水戸医療センターへの医師・看護師派遣）

### (3) 霞ヶ浦医療センターへの医師派遣

霞ヶ浦医療センターは、いわき病院及び茨城東病院から重心患者46名を受け入れるとともに、茨城市立総合病院等県内の病院から脳出血後、心疾患、認知症やパーキンソンなど20名を超える患者を受け入れた。主に内科

系(内科、消化器科、呼吸器科)の医師3名と筑波大学からの応援医師が対応していたが、負担が大きいため3月23日から3月30日までの間、関東信越ブロック管内病院から医師を派遣した。

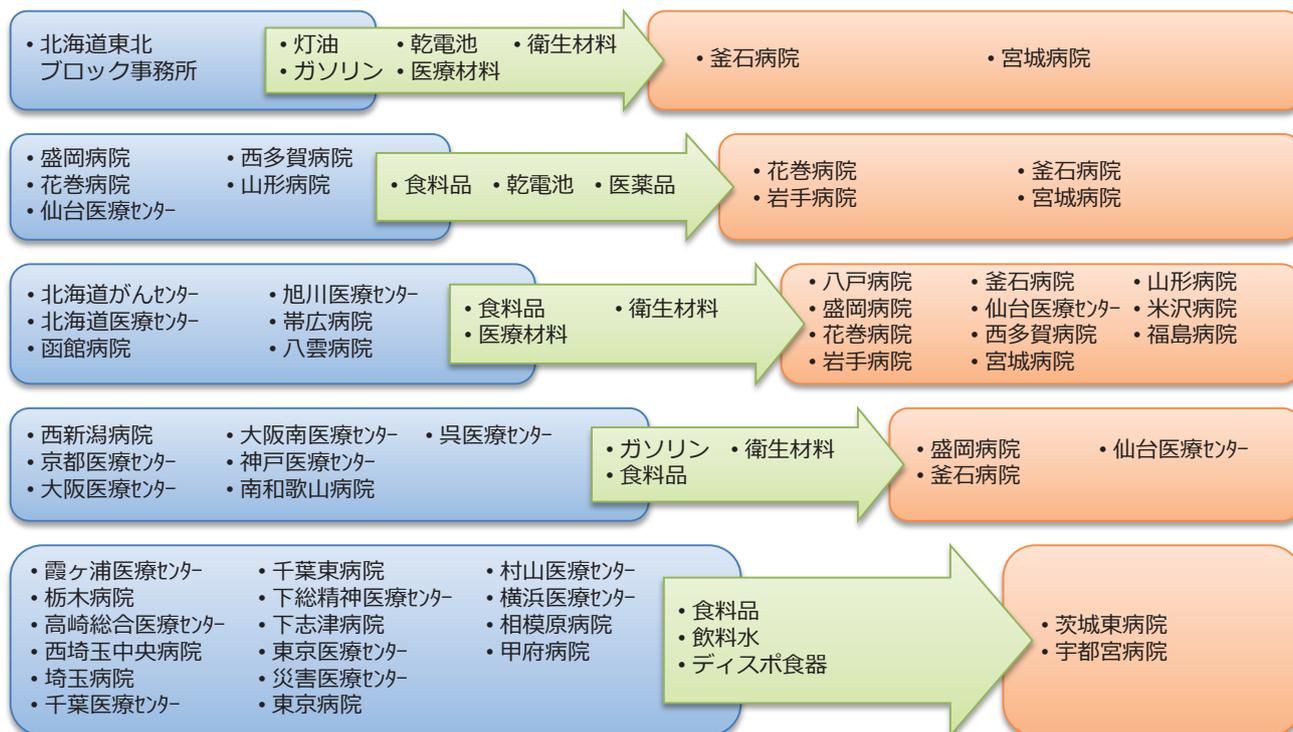
#### 【派遣スケジュール】

派遣病院	3月23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日
千葉東病院	医師1名→							
箱根病院	医師1名→							
西埼玉中央病院					医師1名→			
千葉医療センター					医師1名→			

### 被災した機構病院に対する食糧等の支援

ライフラインの停止により、入院患者等に提供する飲料水、食糧の確保が困難となった病院に対し、北海道東北、関東信越ブロック管内の病院をはじめ、近畿ブロック

管内病院や呉医療センターから飲料水、食糧等を支援した。



## 機構本部の活動

機構本部では、地震発生直後、機構本部内に「国立病院機構災害対策本部」を設置し24時間体制で震災の対応をした。

ブロック事務所を通じて各病院の被害状況を把握し、患者食糧、医薬品、ガソリン等を手配、被災病院に緊急物資搬送した。同時に被災県、厚生労働省からの医療班等の派遣要請に対して、ブロック事務所と連携しながら派遣計画を策定し、切れ目のない支援活動を可能にした。

また、被災地での支援活動の拠点として設置したNHO現地災害対策本部へ3月14日から5月17日までの

### 10トラックによる支援物資搬送

本部が手配した10トラックに、呉医療センターに備蓄されている医療材料、医薬品、食糧を積載し、仙台医療センター及び盛岡病院に搬送した。17日16時に呉医療センターを出発したトラックは神戸医療センター、京都医療センター（大阪南医療センターからの物資も搬入）を経由し支援物資を追加積載。18日に現地に到着した。

間に約130名（延べ約520人日）の本部・ブロック・病院職員を派遣し、避難所での医療ニーズの把握、地元自治体との連絡調整、医療班のサポートなどを行った。



- ① NHO 現地対策本部
- ② 医療班等の移動手段を確保
- ③ 各病院の被害状況把握
- ④ 医療班の食糧等装備品調達
- ⑤ 首相官邸に要請した支援物資の搬入
- ⑥ 北海道東北ブロック事務所での情報収集
- ⑦ 北海道東北ブロック事務所による物資搬送
- ⑧ 北海道の機構病院からの支援物資
- ⑨ 仙台医療センターの様子

## ブロック事務所の活動

北海道東北、関東信越ブロック事務所では、地震発生直後から24時間体制で管内病院の被害状況を情報収集、不足物資の把握・搬送を行うとともに、医療班等の派遣に伴い派遣病院、移動手段、使用する医薬品の確保等の調整を行った。

また、北海道東北ブロック事務所では、被害の大きかった仙台医療センター、宮城病院に対して、ブロック職員

を派遣し、患者給食配膳作業や避難住民の避難場所の設置作業等の人的応援をした。

東海北陸、近畿、中国四国、九州ブロック事務所においては、医療班等の派遣調整の他、被災地に設置したNHO現地対策本部に職員を派遣し、機構本部とともに活動した。



## 3. その他

### 計画停電への対応

震災により発電所等が甚大な被害を受け、電力需要が供給電力を上回ることによる大規模停電の発生を避けるため、3月15日から東京電力管内において、東京電力の判断で計画停電が実施された。

機構本部では、計画停電による医療機関の大混乱は必至であるとの判断から、国に対して医療機関への配慮を強く働きかけた。

機構病院でも12病院で累計50回の停電が実施され、最多は横浜医療センターの7回であった。また、茨城県、北群馬、東京23区は、当初より計画停電のエリアから除外されており、エリア内の病院についても、東京病院、久里浜アルコール症センターなどが個別に除外され、後に、高崎総合医療センター、横浜医療センター、災害医療センターが除外された。

なお、東北電力管内でも計画停電が予定されていたが、実施されることはなかった。

計画停電による影響は、無停電設備、自家発電設備の能力などにより異なるため一概に言えないが、事実上病院機能が停止した。

#### 【計画停電による影響】

- 放射線等の医療機器が使用できないため（一部の病院では一部の機器は使用可）、外来診療が行えず、救急患者も受け入れられない。
- 電子カルテなどのIT機器が（一部しか）使用できないため、外来を受け入れられない。
- 冷暖房が使用できない。
- 手術のバックアップができなくなるため、手術が実施できない。
- 給食が用意できない
- 人工呼吸器については、停電時の作動確認のため多くの人員が必要である。
- 医療機器やIT機器は事前のシャットダウン・事後立ち上げが必要であり、3時間の停電であっても前後1時間程度使えない。

#### 【計画停電の実施状況】

栃木病院（4回）、宇都宮病院（4回）、高崎総合医療センター（5回）、東埼玉病院（4回）、村山医療センター（4回）、横浜医療センター（7回）、箱根病院（3回）、相模原病院（4回）、神奈川病院（3回）、甲府病院（5回）、静岡富士病院（3回）、静岡医療センター（4回）

### 人工呼吸器を利用する在宅医療患者の緊急一時入院の受入、緊急相談窓口等の設置

#### (1) 人工呼吸器を利用する在宅医療患者の緊急一時入院の受入、緊急相談窓口の設置

計画停電の予定地域にある19の機構病院において、人工呼吸器を利用する在宅患者の療養を担当している在宅療養支援診療所の主治医等からの緊急相談を受ける窓口を3月15日より設置、活動。緊急一時入院の受入もあった。

相談件数71件、入院受入患者7名、外来患者2名

#### (2) てんかんホットラインの開設

静岡てんかん・神経医療センターでは、震災により服薬の継続が困難になったてんかん患者等を支援するために相談窓口を設置、活動を行った。

相談件数 約30件

## 人工呼吸器を使用する在宅医療患者の 緊急相談窓口の設置

### ①東北電力管内区域

弘前病院、あきた病院、西新潟中央病院、  
新潟病院、さいがた病院

### ②東京電力管内区域

霞ヶ浦医療センター、茨城東病院、高崎総合医療センター、  
沼田病院、埼玉病院、千葉医療センター、千葉東病院、  
下志津病院、東京医療センター、災害医療センター、  
東京病院、横浜医療センター、相模原病院、  
神奈川病院

## てんかんホットラインの設置

静岡てんかん・神経医療センター



計画停電の様子（写真：東京都多摩市提供）

## 医療支援にあたっての留意点

医療支援にあたって、幾つかの点に留意した。まず迅速性であり、災害急性期（約48時間）のDMAT派遣等に精力を注いだ。また、現場の情報収集・評価に基づく医療支援のため、現地対策本部や医療班等を通じ、刻々と変化する医療支援ニーズの把握に努め、その情報をもとに派遣する医療班の活動場所、構成、活動期間等を機構本部にて決定した。また、関係機関との連携については、現場に即した支援となるよう自治体や医師会等と密に情報共有・調整を行うこと、他の支援団体との役割分担を明確にすること等に努めた。さらに、後続の医療班への活動内容や課題の確実な引き継ぎ、一貫した指揮命令系統とロジスティックス等、機構のネットワークを活かした組織的な活動を継続した。加えて、地域の医療体制の復興を見据え、応急医療から地域の医療体制へ円滑に引き継ぐため、地域のかかりつけ医の再開スケジュール、避難者数と医療ニーズの変化、医療機関へのアクセス等の様々な背景を考慮し活動・調整にあたった。

## 今後に向けて

次なる危機に向け、今回の経験から、災害時の通信手段の改善として、全国立病院機構病院における優先電話の加入、衛星携帯電話の配備等を行った。さらに、現在厚生労働省において検討が進められている災害拠点病院やDMATの機能等の見直しの動向等を踏まえ、国立病院機構防災業務計画の改正、災害医療に関する研修の一層の充実等を行う予定である。引き続き、機構のネットワークを活かした医療支援の提供に努めていきたい。

## 計画停電への対応

## 【北海道東北ブロック管内】

(平成23年3月11日時点)

病院名	ライフライン 3.11時点での被害 ○：使用可 △：不足 ×：使用不可			建物等 物的被害 H23.4.7現在	職員被害 H23.3.31現在
	電気	水道	ガス		
弘前病院	× 3.12復旧	× 3.13復旧	× 3.13復旧		死亡1
八戸病院	× 3.14復旧	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■エキスパンションジョイント (EXP.J) が各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂。</li> </ul>	
青森病院	× 3.13復旧	○	○		
盛岡病院	× 3.13復旧	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂。</li> </ul>	
花巻病院	× 3.13復旧	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> </ul>	
岩手病院	× 3.14復旧	× 3.16復旧	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■渡り廊下の基礎コンクリートの一部脱落により柱脚のアンカーボルトが露出し、床に段差が生じている。</li> <li>■水平変形により外壁材が破損落下。</li> <li>■地盤沈下により正面玄関と渡り廊下に80~100mmの段差が生じている。</li> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂。</li> <li>■柱のせん断・ひび割れによりコンクリートが一部剥落。</li> <li>■構内道路が地盤沈下により陥没破損。</li> </ul>	
釜石病院	× 3.14復旧	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂。</li> </ul>	死亡1 通勤困難3
仙台医療センター	× 3.14復旧	△ 4.22復旧	×(3.14-) 3.30復旧	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高架水槽が破損して水漏れ。</li> <li>■受水槽が破損して水漏れ。</li> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂が入り、タイル等の仕上材が破損。</li> <li>■外壁に亀裂が入り、タイルが落下。</li> <li>■天井取付物の一部が落下、位置ずれなど。</li> </ul>	軽傷2 通勤困難84
西多賀病院	○	×(水道) 3.27復旧 ○(井水)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■作業療法棟の外壁が落下。</li> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂。</li> <li>■構内道路と排水溝が地盤沈下により陥没。</li> </ul>	通勤困難1
宮城病院	× 3.16復旧	×(井水) 3.18復旧	△ 3.18復旧	<ul style="list-style-type: none"> <li>■受水槽破損により水漏れ。</li> <li>■水管ボイラー1台が内部破損により使用不可能。</li> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂が入り、ボード等の仕上材が破損。</li> <li>■天井取付物の一部が落下、位置ずれなど。</li> </ul>	死亡1 通勤困難12
あきた病院	× 3.12復旧	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■壁に亀裂。</li> <li>■コンクリート電柱に亀裂。</li> </ul>	
山形病院	× 3.13復旧	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂。</li> </ul>	通勤困難31
福島病院	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂が入り、仕上材が破損。</li> <li>■構内道路に亀裂が入り、地盤沈下により建物周囲の陥没が著しい。</li> <li>■擁壁が破損。</li> </ul>	
いわき病院	× 3.18復旧	× 4.15復旧	× 3.31復旧	<ul style="list-style-type: none"> <li>■津波により、外部のフェンスなどが倒壊。</li> <li>■浸水により、フローリング床や床置の冷暖房機器などが損傷。</li> <li>■EXP.Jが各所で破損。</li> <li>■壁に亀裂。</li> <li>■医療ガス供給装置(吸引、圧縮空気)が冠水。</li> <li>■エアコン室外機などが流されている。</li> </ul>	通勤困難43

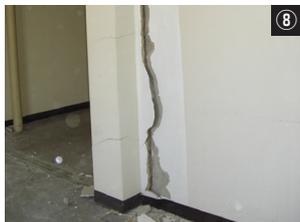
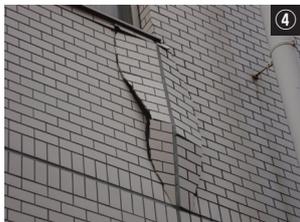
## 【関東信越ブロック管内病院】

(平成 23 年 3 月 11 日時点)

病院名	ライフライン 3.11 時点での被害 ○：使用可 △：不足 ×：使用不可			建物等 物的被害 H23.4.7 現在
	電気	水道	ガス	
水戸医療センター	○	○	○	(病院棟外部) ▪ 寮側入口で、h-150mm程度地盤沈下にて段差が発生。 (病院棟外壁) ▪ タイル面外壁および各所タイルに剥がれ。 ▪ 吹き付け塗装面各所でひび割れ。 ▪ 開口部(サッシ、シャッター他)にひび割れ。一部建具の変形有り。 (病院棟内壁) ▪ 階段部に壁のひび割れ多数。 ▪ デイルーム、機械室付近の壁面、建具開口部周辺ひび割れ多数。
霞ヶ浦医療センター	○	○	○	▪ 壁一部剥落。配管破損。高架水槽漏水。
茨城東病院	× 3.12復旧	市水道：× 3.19-20復旧 井水：× 3.15復旧	○	▪ [各建物増築部のEXP.J]ほとんどのEXP.J部は内部及び外部とも破損。 ▪ [受水槽]雑用水に使用している受水槽(120t)上部破損。現在は30t程度で運用。更新必要。 ▪ [高架水槽]1~4病棟屋上の高架水槽から漏水あり。 ▪ [5, 6病棟ELV棟]床傾きあり(片側が5cm下がっている)。EXP.Jも開きあり。構造の専門家による使用可否の判断が必要。 ▪ [液酸タンク]目視では見る角度によって若干傾きがあるように見える。 ▪ [13病棟]天井一部破損。患者は11病棟と12病棟へ避難中。 ▪ [各配管]漏水箇所は多数あったが病院ボイラー技士によりほぼ修理完了。 ▪ [外来管理棟2階]医局、給湯室で間仕切り壁のコンクリートブロックが天井を突き破って落下。会議室天井破損。 ▪ [医療機器]ガンマカメラ破損。 ▪ [病院外部・内部]病院外周(EV前)で地盤沈下による段差が発生。病院老化壁面のひび割れ、剥離。手すりの脱落。
栃木病院	○	○	○	▪ 壁一部剥落。内装破損。配管破損。
宇都宮病院	× 3.12復旧	市水道：× 3.11復旧 井水：× 3.12復旧	○	▪ [西5病棟 内部]建物の内部の壁、柱等の仕上材のひび割れが著しく、空調機器等についても脱落箇所あり。 ▪ [西5病棟 外部]外部の壁、柱等についてもひび割れが著しい。屋上の防水については、目視ではひび割れ裂け目等は見られない(但し、経過観察し、水漏れがないか確認が必要) ▪ [西6病棟 内部]建物の内部の壁、柱等の仕上げ材のひび割れ、損傷が見られる。 ▪ [機能訓練棟 内部]EXP.Jカバーのはずれ。 ▪ [機能訓練棟 外部]構造体の損傷。下がり壁部分がたわんでいる可能性あり。内部の天井裏が確認できなかったが、復旧時に構造体内部にひび割れが入っているか確認が必要。建具の開閉は問題なし。今後、建具の開閉が困難になった場合は、下がり壁部分のたわみが進行していることが考えられるため、鉄骨等で補強を行う必要がある。 ▪ [西1、2、3病棟 内部]冷温水管の破損により、1階から3階まで3ヶ病棟が浸水。壁面のひび割れ。
西埼玉中央病院	○	○	○	▪ 建物一部ひび割れ。内装材破損。
千葉医療センター	○	○	○	▪ 低層棟一部ひび割れ。たれ壁損傷。
千葉東病院	○	○	○	▪ 低層棟一部ひび割れ。EXP.J隙間あり。
下総精神医療センター	○	○	○	▪ 低層棟一部ひび割れ。EXP.J隙間あり。 ▪ 配管破損(旧3・5病棟貯湯槽給水配管と渡り廊下天井冷温水管)。
下志津病院	○	○	○	▪ 建物一部ひび割れ。 ▪ 受水槽ひび割れ。EXP.J外れ。
東京医療センター	○	○	○	▪ 建物一部ひび割れ。
災害医療センター	○	○	○	▪ 建物一部ひび割れ。発電機過給器から煙。
東京病院	○	○	○	▪ 高架水槽水漏れ。EXP.J外れ(東4F病棟はエキスパンション部分の破損が激しいため、患者全員を他の病棟へ転送させ休棟)
村山医療センター	○	○	○	▪ 建物一部ひび割れ。

【北海道東北ブロック管内病院の被害】

- ①②岩手病院
- ③～⑤仙台医療センター
- ⑥～⑧宮城病院
- ⑨⑩西多賀病院
- ⑪⑫福島病院
- ⑬⑭いわき病院



【関東信越ブロック管内病院の被害】

- ①～④水戸医療センター
- ⑤～⑦茨城東病院
- ⑧～⑩宇都宮病院

